

R-19

### 1. 梁増打ちコンクリート要領

B, D (mm)	e (mm)	50 < e ≤ 200
B, D ≤ 300	2	D16
300 < B, D ≤ 500	3	D16
500 < B, D ≤ 700	4	D16
700 < B, D ≤ 900	5	D16
900 < B, D ≤ 1100	6	D16
1100 < B, D ≤ 1300	7	D16

\* e ≤ 50mmの場合は補強筋不要とする。

### 2. はり間方向屋根根梁水勾配増打部の補強要領

はり間方向屋根の水勾配増打部の補強は下記に依る。

(水側) (水上)

2-D16

N-D10 @500 (水下半分) N-D10 @250 (水上半分)

h<sub>0</sub> ≥ 300 (屋根コンクリート上層)

名称: ラーメン構造 梁増打ち要領  
縮尺: R-16-1

R-21

### 設備機器埋込み要領

名称: 設備機器埋込要領  
縮尺: R-16-3

R-20

### 1) 柱増打ちコンクリート要領

B, D (mm)	e (mm)	50 < e ≤ 125
300 < B, D ≤ 500	3	D16
500 < B, D ≤ 700	4	D16
700 < B, D ≤ 900	5	D16
900 < B, D ≤ 1,100	6	D16
1,100 < B, D ≤ 1,300	7	D16

\* e ≤ 50mmの場合は補強筋不要とする。

名称: ラーメン構造 柱増打ち要領  
縮尺: R-16-2

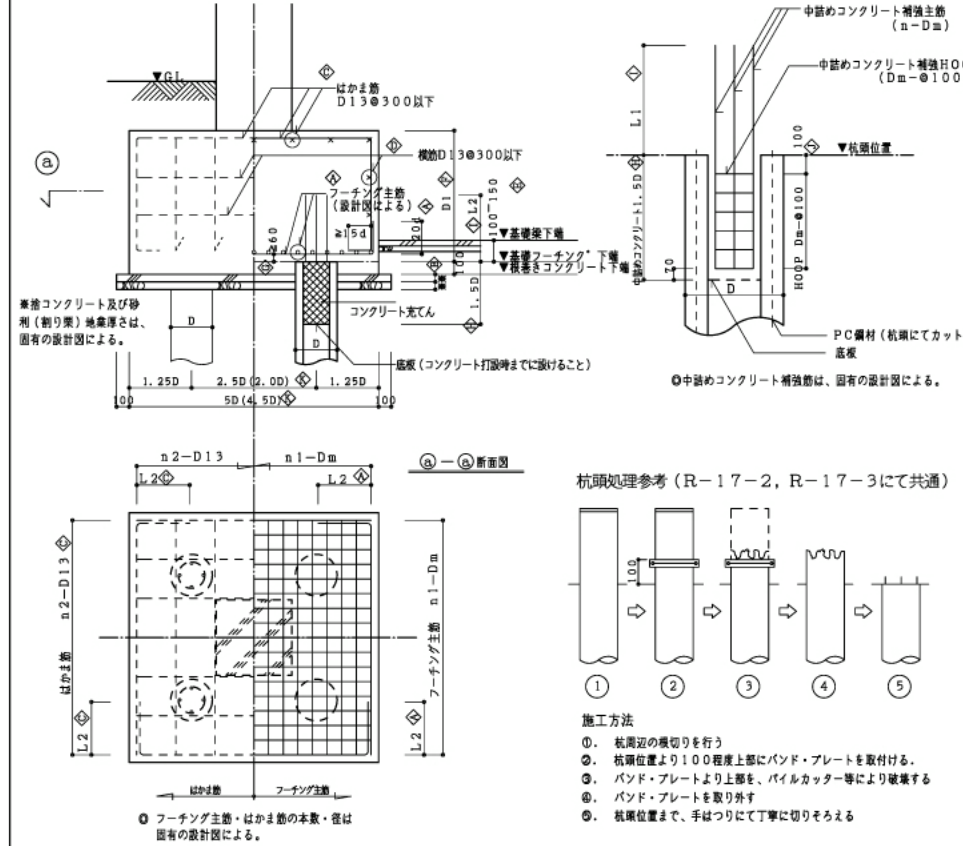
R-22

### 1. 直接基礎の場合

(a) 台形断面基礎 (b) 長方形断面基礎

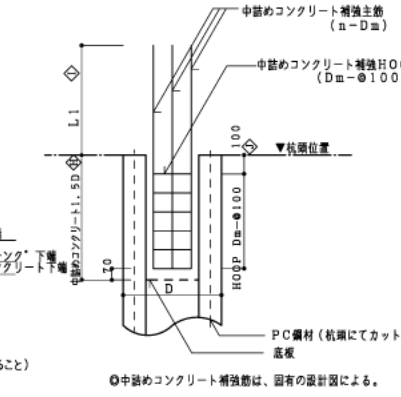
名称: ラーメン構造基礎 (その1)  
縮尺: R-17-1

2. 既製杭の場合 (PHC・SC杭)



公共住宅標準詳細設計図集

杭頭補強参考図



杭頭処理参考 (R-17-2, R-17-3にて共通)



R-23

① フーチング主筋本数は設計図による。四隅部鉄筋は一方を水平にL2定着し、他の一本を立上げる。

② 根巻きコンクリートの厚さは100mmとする。

③ はかま筋は特記なき限りD13@300以下とし、末端部の余長は15d以上とし主筋とラップさせる。なお四隅部の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。

④ はかま筋、横筋もD13@300以下とする。

⑤ 基礎梁下端と基礎フーチング下端は、フーチング主筋と基礎梁下端の鉄筋が重なるのを避けるため、100~150mmのあきをとる。

⑥ フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

⑦ フーチングの主筋は、杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。

⑧ 中詰めコンクリートは、杭頭位置より杭径の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。

⑨ 中詰めコンクリート補強主筋は、杭頭位置よりL1の定着を行うこと。

⑩ 中詰めコンクリート補強HOP筋は、杭頭位置より100mm下つた位置より割付を行うこと。

⑪ ( ) 内数値は埋込み杭の場合を示す。

・中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの調合と同じ調合のコンクリートを使用すること。

・既製杭の基礎形状は、R-17-2及びR-17-3の2タイプあるので、どちらを使用するかは固有の設計図による。

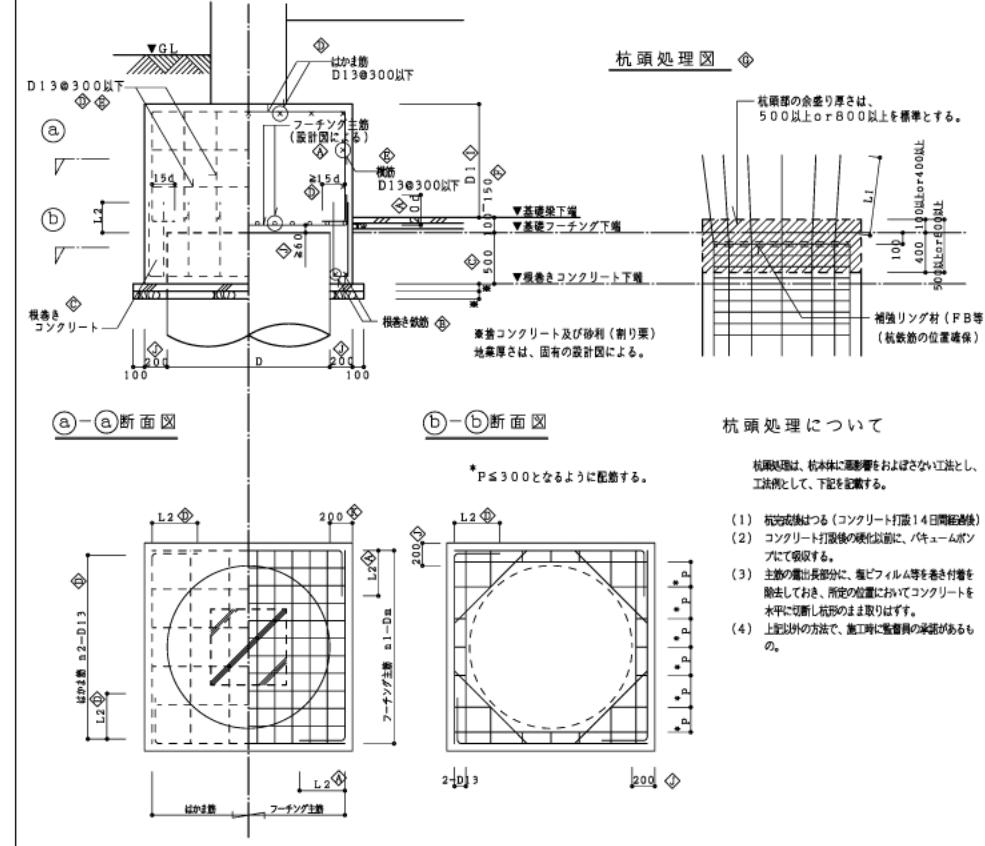
・杭の引き抜きに対しての杭頭接合部の計算を行う。

・杭頭接合部の固定度(a)は、十分注意して設計する。

名称: ラーメン構造基礎(その2)

縮尺: R-17-2

4. 場所打ち杭の場合 (柱SRC造でアンカーボルトをS-33-1とする場合)



公共住宅標準詳細設計図集

R-25

① 隅内部の鉄筋は一方を水平にL2定着し、他方を立上げるものとする。

② 根巻きコンクリートの厚さは100mmを標準とする。

③ はかま筋はD13@300以下とし、フーチング下端まで下げ、末端部の余長は15dとし主筋とラップさせる。

④ はかま筋、横筋もD13@300以下とする。

⑤ 基礎梁下端と基礎フーチング下端は、フーチング主筋と基礎梁下端の鉄筋が重なるのを避けるため、100~150mmのあきをとる。

⑥ 杭頭部の余り厚さは杭施工時の孔中に水が多い場合は80mm以上とし、孔中に水が少ない場合は50mmを標準とする。また柱主筋はフーチング内にL1以上定着すること。

⑦ フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

⑧ フーチングの主筋は杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。

⑨ 杭のフーチングからのへりあきは、200mmを標準とする。なお、杭が2本打ち以上となる場合のフーチングは長方形とする。この時の杭間隔は2D以上とする。

杭頭処理は、杭本体に影響をおよぼさない工法とし、工法例として、下記を記載する。

(1) 杭完成後は、(コンクリート打設14日間経過後)コンクリート打設後の硬化以前に、バキュームポンプにて吸引する。

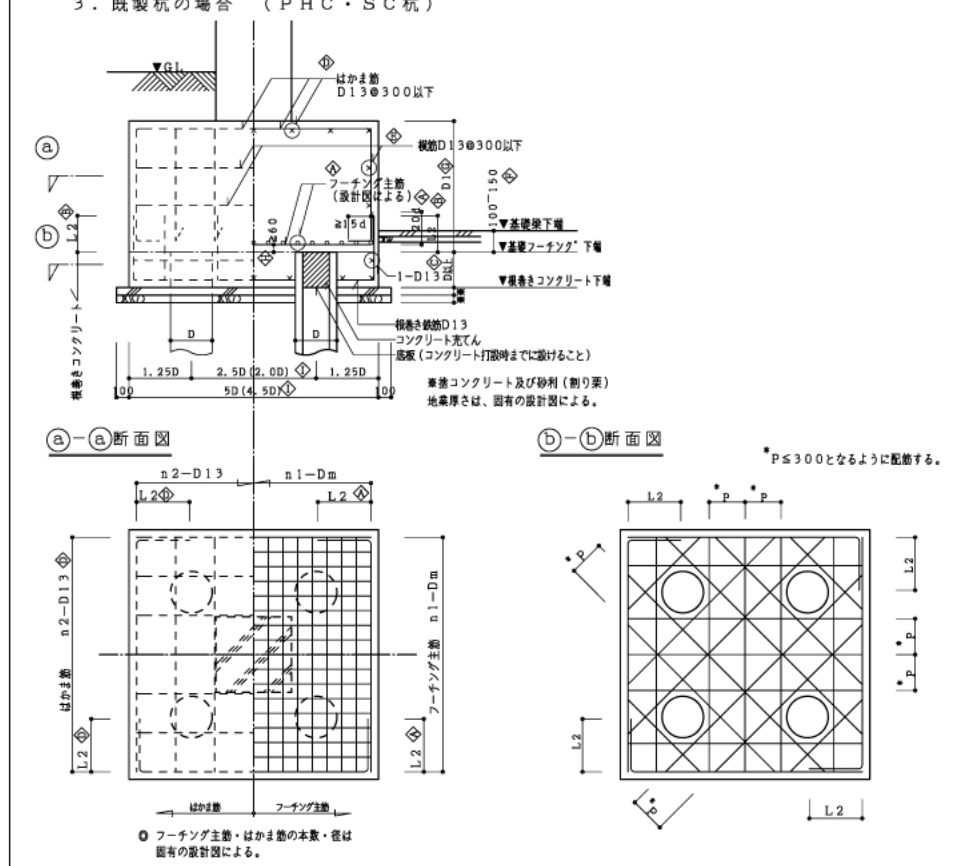
(2) 主筋の露出長部分に、巻ビニール等を巻き付着を除去し、所定の位置においてコンクリートを水平に切断し杭形のまま取り出す。

(3) 上記以外の方法で、施工時に監督員の承認があるもの。

名称: ラーメン構造基礎(その4)

縮尺: R-17-4

3. 既製杭の場合 (PHC・SC杭)



公共住宅標準詳細設計図集

R-24

① フーチング主筋本数は設計図による。フーチング端において20d上方に立上げるものとする。四隅部鉄筋は一方を水平にL2定着し、他の一本を立上げる。

② 根巻き鉄筋は原則としてD13を用い、縦、横、斜めに間隔300mm以下となるように配し、末端部はフーチング部分の鉄筋は、主筋と同様一方を水平にL2定着し、他の一本を立上げる。

③ 根巻きコンクリートの厚さは杭径以上とする。

④ はかま筋は、特記なき限りD13@300以下とし、末端部の余長は15d以上とし、フーチング主筋とラップさせる。なお四隅部の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。

⑤ はかま筋、横筋もD13@300以下とする。

⑥ 基礎梁下端と基礎フーチング下端は、フーチング主筋と基礎梁下端の鉄筋が重なるのを避けるため、100~150mmのあきをとる。

⑦ フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

⑧ フーチングの主筋は杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。

⑨ ( ) 内数値は埋込み杭の場合を示す。

・中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの調合と同じ調合のコンクリートを使用すること。

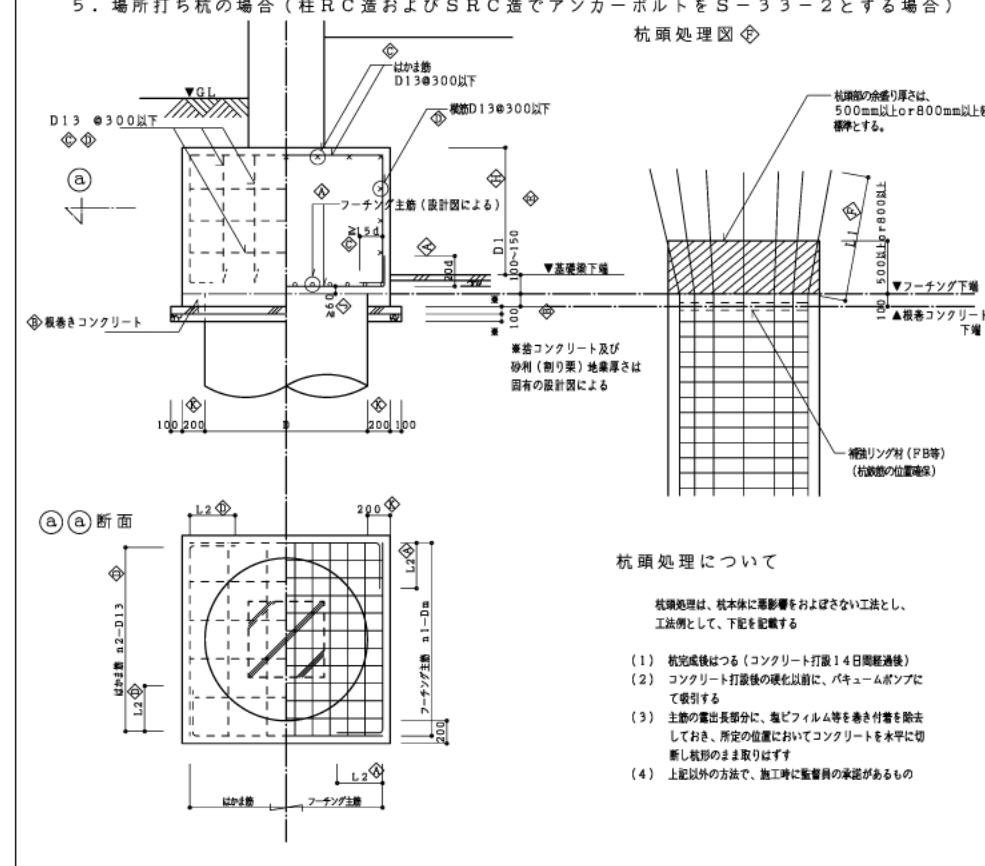
・杭の引き抜きに対しての杭頭接合部の計算を行う。

・杭頭接合部の固定度(a)は、十分注意して設計する。

名称: ラーメン構造基礎(その3)

縮尺: R-17-3

5. 場所打ち杭の場合 (柱RC造およびSRC造でアンカーボルトをS-33-2とする場合)



公共住宅標準詳細設計図集

R-26

① 隅内部の鉄筋は一方を水平にL2定着し、他方を立上げるよう配筋する。

② 根巻きコンクリートの厚さは100mmを標準とする。

③ はかま筋はD13@300以下とし、フーチング下端まで下げ、末端部の余長は15dとし主筋とラップさせる。

④ はかま筋、横筋もD13@300以下とする。

⑤ フーチング下端と基礎梁下端のあきは、100~150mmとし、フーチング鉄筋と基礎梁主筋の重なりをさける。

⑥ 杭頭部の余り厚さは杭施工時の孔中に水が多い場合は80mm以上とし、孔中に水が少ない場合は50mmを標準とする。また柱主筋はフーチング内にL1以上定着すること。

⑦ フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。

⑧ フーチングの主筋は杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。

⑨ 杭のフーチングからのへりあきは、200mmを標準とする。なお、杭が2本打ち以上となる場合のフーチングは長方形とする。この時の杭間隔は2D以上とする。

杭頭処理は、杭本体に影響をおよぼさない工法とし、工法例として、下記を記載する。

(1) 杭完成後は、(コンクリート打設14日間経過後)コンクリート打設後の硬化以前に、バキュームポンプにて吸引する。

(2) 主筋の露出長部分に、巻ビニール等を巻き付着を除去し、所定の位置においてコンクリートを水平に切断し杭形のまま取り出す。

(3) 上記以外の方法で、施工時に監督員の承認があるもの。

名称: ラーメン構造基礎(その5)

縮尺: R-17-5

R-3.9

### 床スラブ配筋基準

4 辺固定スラブ

3 辺固定 1 辺自由スラブ

[1]

[2]

No	種別	位置	短辺方向			長辺方向			備考
			柱間部 端部	中央	柱列部 端部、中央	柱間部 端部	中央	柱列部 端部、中央	
		上端筋	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	Ⓕ	
		下端筋	Ⓖ	Ⓗ	Ⓖ	Ⓖ	Ⓖ	Ⓖ	

a. 継手長さ……L1 (引張り力を受ける箇所) L2 (圧縮力を受ける箇所)  
b. 定着長さ……(上端筋……L2) (下端筋……L3) 要領は図1による。

\* 図1

(前圧縮)

名称 床板 (その1)  
縮尺 R-5 1-1

中央部上端(Ⓒ部分)は、端部上端筋を1本おきに通すことを標準とする。

柱列部の配筋は、柱間部の配筋の1/2(断面積比)かつ下表の値以上とする。

柱間部上端筋	柱列部上下筋
D10 ⌀ 150	D10 ⌀ 250
D10 ⌀ 200	D10 ⌀ 250
D10 ⌀ 250	D10 ⌀ 250
D10 ⌀ 300	D10 ⌀ 250
D10 D13 ⌀ 150	D10 ⌀ 200
D10 D13 ⌀ 200	D10 ⌀ 250
D10 D13 ⌀ 250	D10 ⌀ 250
D10 D13 ⌀ 300	D10 ⌀ 250

D13のみときは上表のD10をD13と読みかえて適用する。

3辺固定1辺自由スラブ[1]において、 $L_y/L_x \geq 2$ なる場合は、片持スラブに準じて取り扱う。

3辺固定1辺自由スラブ[1]、[2]の場合は、モチアミ配筋とする。

名称 床板 (その1)  
縮尺 R-5 1-1

R-4.0

### 床板配筋要領

\* SRC部分下端筋の納まり

### 床板スプーサー配置要領

[1] 住戸部分床板の上端スプーサー

住戸部分床板の上端には、プラスチックスプーサーまたは鋼製スプーサー(いずれも鉄筋止め止め工のあるもの)を肩筋の位置(○印にて示す)に750mm以下の間隔で設置し、床端部配筋の位置(●印にて示す)に600mm以下の間隔で設置する。ただし、短辺方向の長さが3m以下の場合には、床端部配筋の位置のスプーサーの間隔を750mm以下とすることができる。

[2] 住戸部分床板の下端スプーサー

住戸部分床板の下端には、プラスチックスプーサー(下筋用爪付き)または鋼製スプーサー(鉄筋止め止めの工夫のあるもの)を床板1階当り2階程度の割合で有効に設置する。

名称 床板 (その2)  
縮尺 R-5 1-2

買断はD13以上とする。この位置のスプーサーは、床板スプーサー配置要領により配する。

主筋のトップ筋は $L_x/4$ (長辺方向も $L_x/4$ )より15d延長する。

サポート部分の下端筋は、バースポット等に当たらないように25mm程度ずらして配筋する。

上端筋の定着はL2とし、隣接スラブに定着する場合は通しとしてよい。柱間部上端筋は梁中には継手を設けないことが望ましい。下端筋の定着はL3とし、隣接スラブに定着し、連続する場合は上端筋と同様な処理としてよい。

柱間部中央上端筋は端部上端筋を1本おきに通す。

SRCの場合の床板下端筋は、鉄骨にぶつかる場合または梁の主筋にぶつかる場合については30°を越えない範囲で梁面から折曲げてよい。

在来工法スラブの場合には下記による。

- スラブ厚さは、構造設計による。
- 住戸の遮音性能及び施工精度を上げるために、スラブ厚さは150mm以上とすることが望ましい。
- スラブの内のり面は、長期たわみ、ひび割れ及び変形防止のため24㍉以上とすることが望ましい。
- 内のり面が24㍉を超える場合には、R-5.1-5の補強配筋を行う。

名称 床板 (その2)  
縮尺 R-5 1-2

R-4.1

### 1. 壁受部分のスラブ補強

### 2. スラブ受け筋

### 3. スラブ段差部配筋要領

h ≤ 150mmの場合-1

h ≤ 150mmの場合-2

h > 150mmの場合

### 4. スラブ開口部補強

メッシュによるスラブ開口部補強

名称 床板 (その3)  
縮尺 R-5 1-3

R-4.2

### ◎1階スラブ(土間コンクリートスラブ、後打ちスラブ)差し筋要領

#### 1. 土間コンクリート配筋、差し筋

差し筋の折曲げ位置は基礎壁中心を越える位置に設ける。

#### 2. 1階後打ちスラブ差筋要領

(スラブ厚度及び差筋量は各工率図書の後打ちスラブ配筋リストに換る)

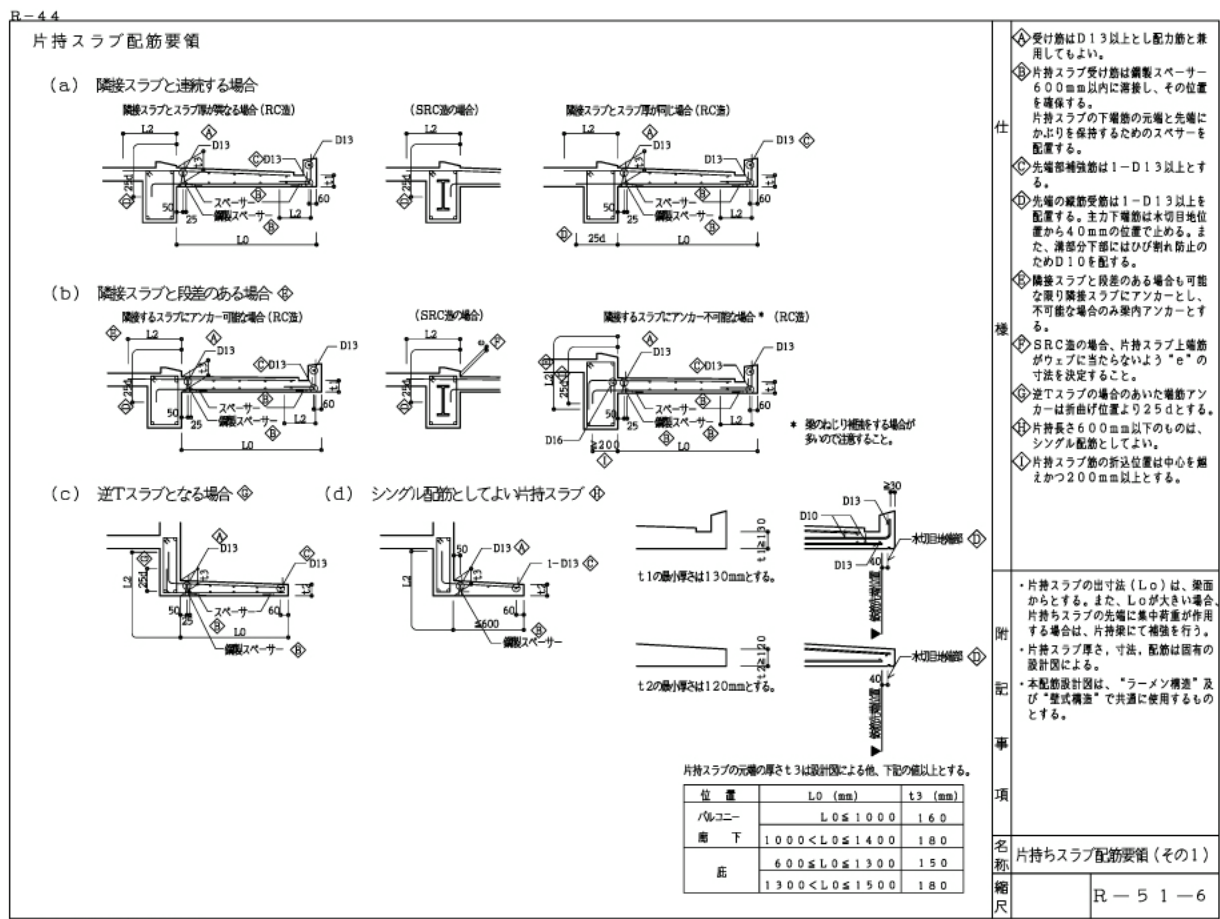
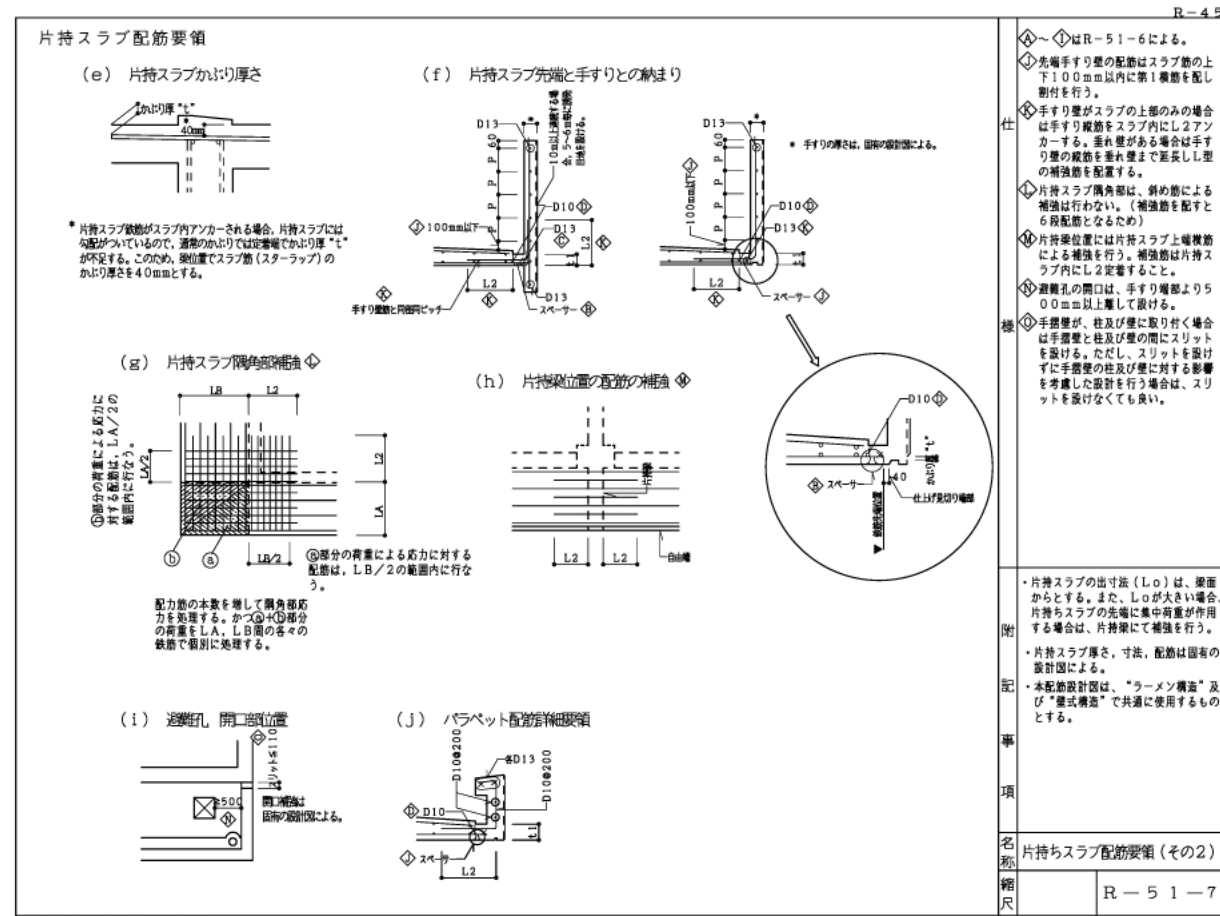
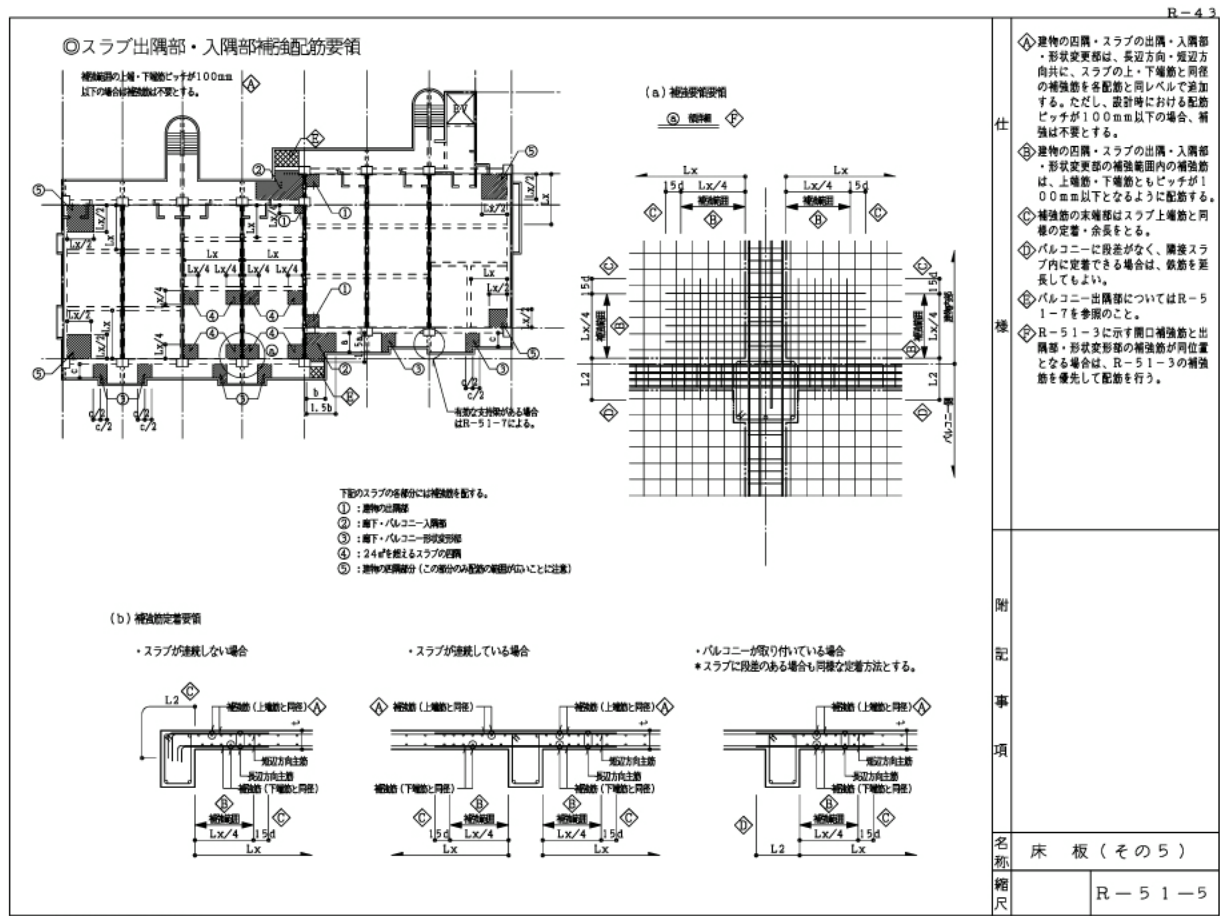
名称 床板 (その4)  
縮尺 R-5 1-4

土間コンクリート天端と基礎壁天端が同レベルになると、差し筋が歪むと見做すことになるので、可能な限り置きスラブとする。

スラブ厚の初期の鉄筋は、梁面より50mmの位置に配するものとする。

土間コンクリートは、居室床には使用しない。

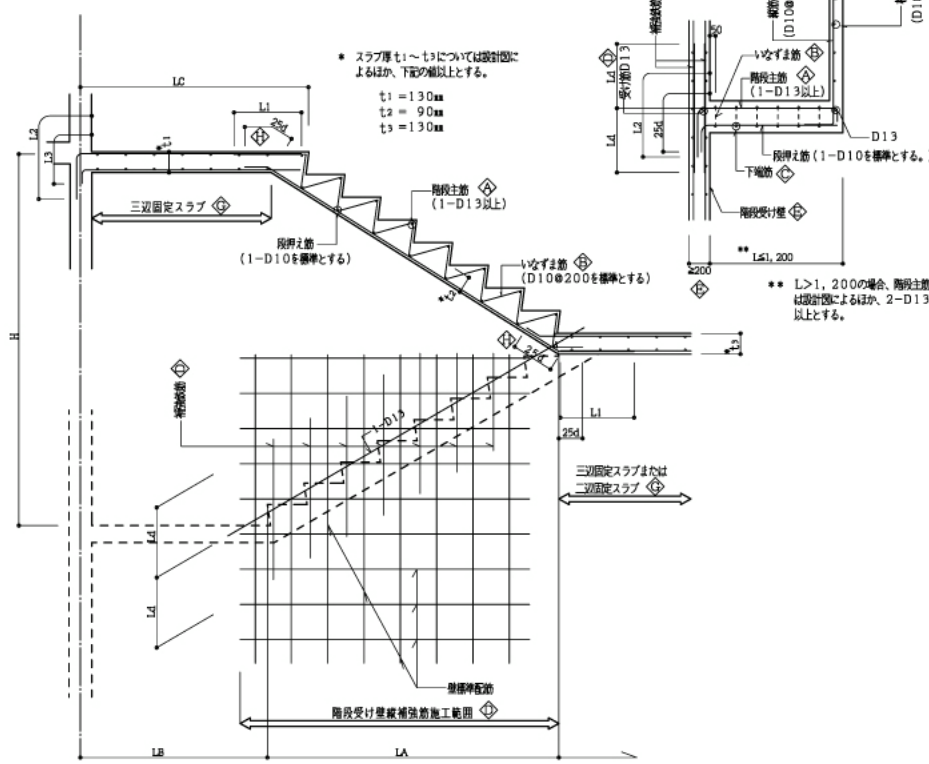
名称 床板 (その4)  
縮尺 R-5 1-4



一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 LV1627	上郷住宅建築工事（第2工区）	図面番号
一級建築士登録 307737号 安東 広品	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(6)	縮尺 A1:一 A3:二
No. S-H		
一級建築士事務所 匠設計、愛知県知事登録 (い-24) 第11595号 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課

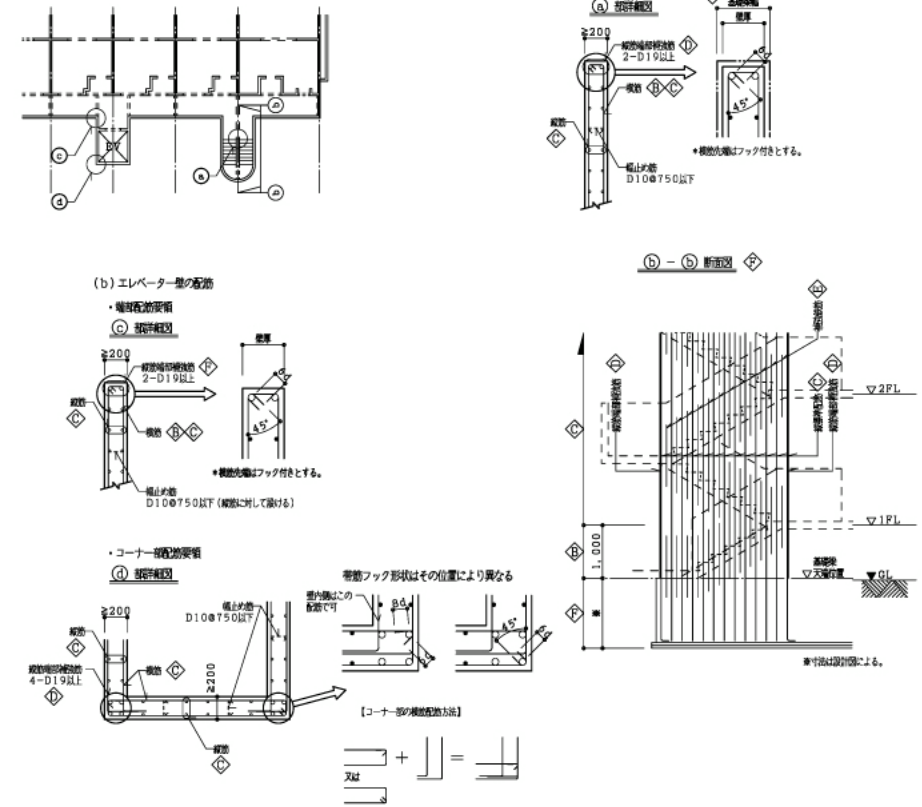
階段配筋詳細図

1) 片持階段の配筋 [住棟内]



公共住宅標準詳細設計図集

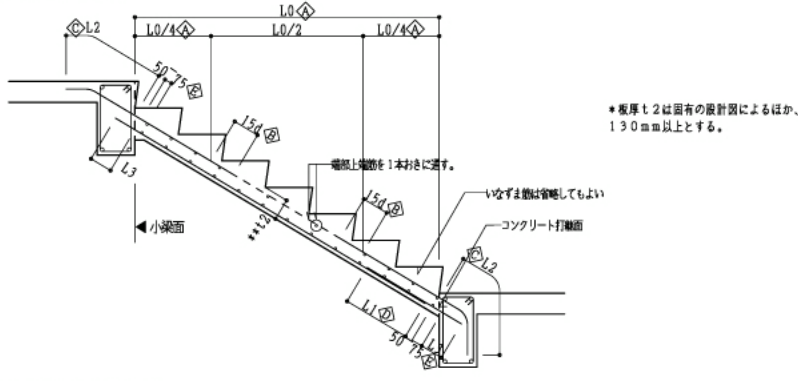
3) 屋外階段及びエレベーター壁配筋要領



公共住宅標準詳細設計図集

2) スラブ階段の配筋

(a) 階段の両端に小梁のある場合



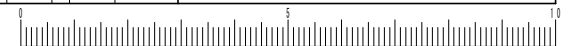
公共住宅標準詳細設計図集

仕  
 主筋の端部中央の区分線は、階段内  
 のリスパン  $L_0$  の  $1/4$  の点とする。  
 (通常のスラブと同様である。)  
 端部トップ筋の余長は、 $L_0/4$  の  
 点より  $15d$  とする。  
 端部上層主筋は隣接するスラブ内、  
 または梁に十分定着させること。定  
 着長は  $L_2$  とする。  
 端部下層筋は  $L_0/4$  の区間内とする。  
 コンクリート打継面があるので注意  
 すること。  
 筋力筋の端部効力位置を示す。筋力  
 筋はこの位置から折行ける。  
 主筋の端部中央の区分線は設計図に  
 よるものとする。  
 端部の上層筋の余長は区分線より  $15d$  とする。  
 折角点において上層筋、下層筋と  
 も継手長さ  $L_1$  をとって、各スラブ  
 筋と連続させる。

附  
 記  
 事項  
 階段の配筋 (いなずま筋等) は R-35、R-55-1 による。

名  
 称  
 階段廻り (その2)  
 R-55-2

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区)	図面番号
一級建築士登録 307737号 安東 広品	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図 (9)	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
No. S-1	設計 H28年3月	
一級建築士事務所 匠設計、愛知県知事登録 (い-24) 第11595号 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人	愛知県建設部建築局公営住宅課	



高強度せん断補強筋施工仕様書 2012年度版

**§1 一般事項**

1-1 適用範囲  
本仕様書は鉄筋コンクリート造の梁及び柱のせん断補強筋（スパイラル筋、中子筋付スパイラル筋、溶接閉鎖形筋及びフック付筋）として使用される高強度鋼棒によるあばら筋及び中子筋の施工に適用する。この仕様書に記載していない事項に関しては「JASS5」及び「メーカーの一般認定書」によるものとする。  
ただし、コンクリートの設計基準強度は $f_c 21 \text{ N/mm}^2 \sim f_c 60 \text{ N/mm}^2$ の普通コンクリートに適用する。  
JIS A5108から外れるコンクリートを使用する場合は、別途仕様書による。

1-2 その他

**§2 材料**

2-1 材種  
1) JIS G 3137「細径異形PC鋼棒」SBPD1275/1420に相当する1275N/mm<sup>2</sup>級のPC鋼棒  
2) 低合金キルド鋼を熱間異形圧延し、制御冷却し、必要に応じて熱処理した線材コイルを素材として、冷間直線矯正加工を施して製造された785N/mm<sup>2</sup>級の鋼棒 (KSS785, KW785, SPR785, KH785)  
3) 成分調整したキルド鋼の鋼塊から熱間圧延によって製造された685N/mm<sup>2</sup>級の鋼棒 (SHD685, SHR685)

2-2 呼び名断面形状

1275N/mm <sup>2</sup> 級			785N/mm <sup>2</sup> 級			685N/mm <sup>2</sup> 級		
呼び名	公称径	断面積	呼び名	公称径	断面積	呼び名	公称径	断面積
d	mm	mm <sup>2</sup>	d	mm	mm <sup>2</sup>	d	mm	mm <sup>2</sup>
P6.2	6.2	30	K6	6.35	31	U6	6.35	31
P7.1	7.1	40	K8	7.94	49	U9	9.00	63
P9.0	9.0	64	K10	9.53	71	U10	9.53	71
P10.7	10.7	90	K13	12.7	126	U13	12.7	126
P12.6	12.6	125	K16	15.9	198	U16	15.9	198

註 径・断面積等はメーカーにより多少の相違がある。

2-3 機械的性質

試験片	1275N/mm <sup>2</sup> 級			785N/mm <sup>2</sup> 級			685N/mm <sup>2</sup> 級		
	降伏点	引張強さ	伸び	降伏点	引張強さ	伸び	降伏点	引張強さ	伸び
	N/mm <sup>2</sup>	N/mm <sup>2</sup>	% (8d)	N/mm <sup>2</sup>	N/mm <sup>2</sup>	% (8d)	N/mm <sup>2</sup>	N/mm <sup>2</sup>	% (8d)
母材	1275	1420	7	785	930	8	685	880	10
溶接部	1275	1420	5	785	930	5	685	880	5

註 降伏点等はそれぞれの記入数値以上とする。

2-4 図示記号  
図面には通常、1275N/mm<sup>2</sup>級はP6.2～P12.6  
785N/mm<sup>2</sup>級はK6～K16  
685N/mm<sup>2</sup>級はU6～U16  
UR6～UR16 と表示する。

**§3 加工**

3-1 曲げ加工溶接  
曲げ加工及び溶接は、  
1275N/mm<sup>2</sup>級は高周波熱錬鋼、JFEテクノワイヤ鋼  
785N/mm<sup>2</sup>級は鋼神戸製鋼、住友金属工業(株)、住友電気工業(株)  
JFEテクノワイヤ鋼、東京鉄鋼(株)、岸和田金属(株)  
685N/mm<sup>2</sup>級は北越メタル(株)  
及び一般認定条件に従って行われなければならない。

3-2 曲げ角度余長

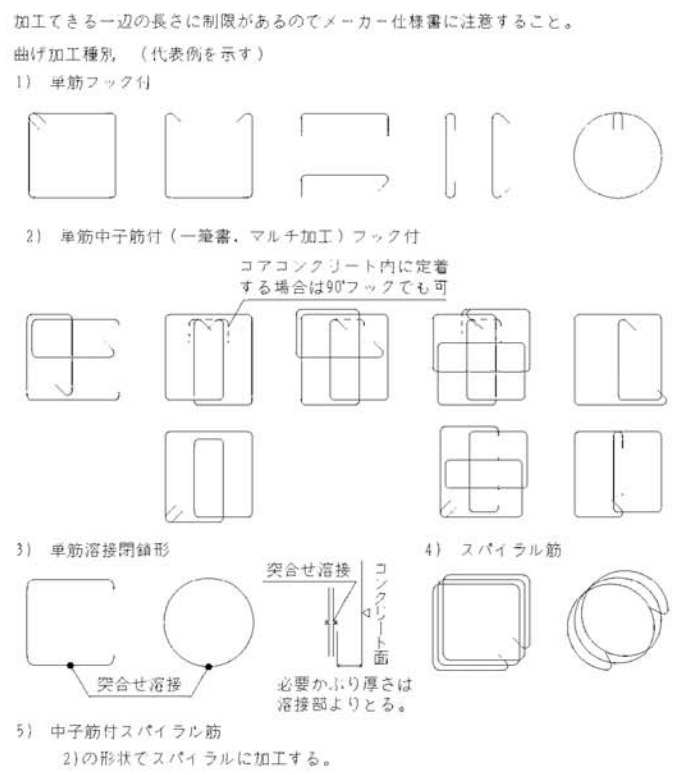
折曲げ部分	末端部	中間部
折曲げ角度	180° 135° 90°	90°以下
余長		

(註) 1. d は呼び名に用いた数値とする。  
2. 折曲げ角度 90° は、スラブと同時に打ち込む T 形及び L 形はりの場合に U 字形あばら筋と共に用いるタイプ及びコアコンクリート内に定着する場合に用いる。  
3. P6.2 の 180° 及び 135° の余長は 8d かつ 55mm 以上とする。

3-3 加工寸法加工形状

	折曲げ内り直径 (D)	余長		
		ℓ <sub>1</sub> (180°)	ℓ <sub>2</sub> (135°)	ℓ <sub>3</sub> (90°)
1275N/mm <sup>2</sup> 級	5d 以上	8d 以上	8d 以上	12d 以上
785N/mm <sup>2</sup> 級	4d 以上	6d 以上	8(6)d 以上	12(10)d 以上
685N/mm <sup>2</sup> 級	UD	4d 以上	6d 以上	6(8)d 以上
	UR	3d 以上	6d 以上	8d 以上

※1 ( ) 内は KW785 のみとする。  
※2 ( ) 内は柱外周に用いる 135° フック閉鎖形筋の余長のみとする。



**§4 保管及び清掃**

4-1 保管  
せん断補強筋は直接地上に置くことを避ける。又、雨・潮風等にさらされず、ごみ、泥油等で汚さない様に保管する。

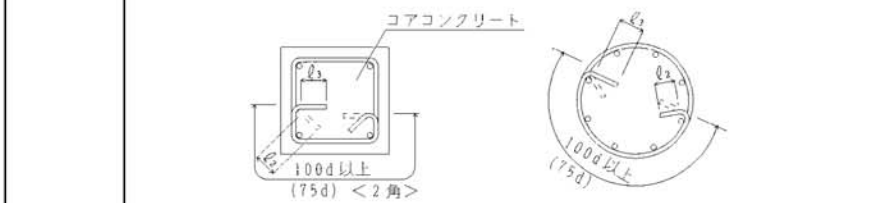
4-2 清掃  
せん断補強筋は組み立てに先立ち、浮き錆・油類・ごみ・泥等コンクリートとの付着を妨げるおそれのあるものは除去する。

**§5 組み立て**

5-1 組み立て  
せん断補強筋は設計図及び施工図に従い正しく配筋し、コンクリートの打ち込み完了まで移動しない様十分堅固に組み立てる。  
フック付単筋を用いる場合はフック位置を交互に配置する。  
溶接閉鎖形筋の溶接面は交互に配置する。

5-2 末端処理  
1) 角スパイラル筋の末端は 1 巻き以上の添え巻きをし、末端には表-4 規定の余長をもつフックを付ける。但し、90° フックの場合はコアコンクリート内に定着する。  
2) 円形スパイラル筋の末端の処理は 1 巻き以上の添え巻きをし、末端には表-4 規定の余長を持つフックをつけ、主筋に密着させて曲げる。

5-3 継手  
1) 角スパイラル筋を部材途中で継ぐ場合、継手重ね長さは 100d (75d) 以上とし、かつ重ね長さ中に少なくとも 2 角以上を含む様に設けるものとする。又末端には表-4 規定のフックをつける。但し、90° フックの場合はコアコンクリート内に定着する。  
2) 円形スパイラル筋を部材途中で継ぐ場合、継手重ね長さは 100d (75d) 以上とし、かつ末端には表-4 規定のフックをつけ、主筋に密着させて折曲げる。  
3) 中子筋付スパイラル筋の場合はメーカー仕様による。



5-5 あばら筋  
単筋フック付きのあばら筋を使用する場合、あばら筋の末端には表-4 規定のフックをつける。但し、90° フックとする場合はスラブと同時に打ち込む T 形及び L 形はりに用いる U 字形あばら筋キャップタイに限る。

**§6 その他**

6-1 注意事項  
1) 高強度鋼棒せん断補強筋は現場溶接を行ってはならない。又、主筋等の溶接に際してはせん断補強筋にアークストライク等過度の加熱をせぬよう十分注意する。  
2) 高強度鋼棒の切断はシャーカッター、電動のこにより行なう。  
3) 曲げ加工したものを曲げもどし、曲げ位置を変更する様な再加工を行ってはならない。

6-2 配筋の検査  
配筋後、コンクリート打ちに先立ち係員の検査を受けなければならない。

6-3 梁貫通補強  
高強度鋼棒で梁貫通補強を行う場合は、大臣認定を得た補強筋を用いる。又、施工に先立ちメーカー側において強度計算を行うものとする。

# プレボーリング拡底根固め工法(大臣認定工法) 特記仕様書

※本図は、Hyper-MEGA工法（大臣認定工法）の概要を示すものであり、施工メーカーを規定するものではない。

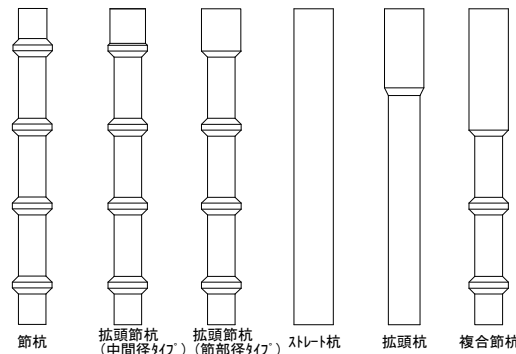
## 1. 一般事項

- 1) 本工事に採用する工法は「Hyper-MEGA工法」（認定番号：TACP-0360号、TACP-0361号、TACP-0362号）とする。
- 2) 工事着手前に、工事概要・工程・使用する杭の明細・使用機械等を明記した施工計画書を作成し、監督員の承認を得る。
- 3) 工事施工者および管理者は、工法認定取得会社もしくは同社が承認した施工会社とする。ただし、後者の場合でも地盤の許容支持力については、工法認定取得会社が責任を負う。

## 2. 使用杭

- 1) 杭の構造  
使用する杭は下記のものとする。  
①平成13年国土交通省告示第1113号8号第二号、第三号、第四号、第五号及び第六号の何れかに基づきコンクリートの許容応力度が規定された既製コンクリート杭。  
②建築基準法施工令第90条、平成12年国土交通省告示第2464号第1、第2に基づき鋼材の許容応力度が規定された鋼管。
- 2) 杭の構成  
節杭（拡頭節杭、複合杭を含む）のみ、または節杭（拡頭節杭を含む）とこの上方に継いで仕様するスレート杭（拡頭杭を含む）により基礎杭を構成する。なお、下杭には必ず節杭（拡頭節杭を含む）を使用する。
- 3) 杭径  
①節杭（拡頭節杭を含む）の径は、以下のものとする。  
節部径 φ1200～φ400  
軸部径 φ1000～φ300  
②スレート杭（拡頭杭を含む）の径は、以下のものとする。  
杭径 φ298.4～φ1200

- 4) 杭姿図  
使用する杭の姿図の例を示す。



- 5) 最大施工深さ

最大施工深さは、先端地盤が砂質地盤の場合は杭施工地盤面－68.5m、先端地盤が礫質地盤の場合は杭施工地盤面－68.5m、先端地盤が粘土質地盤の場合は杭施工地盤面－60.0mとする。

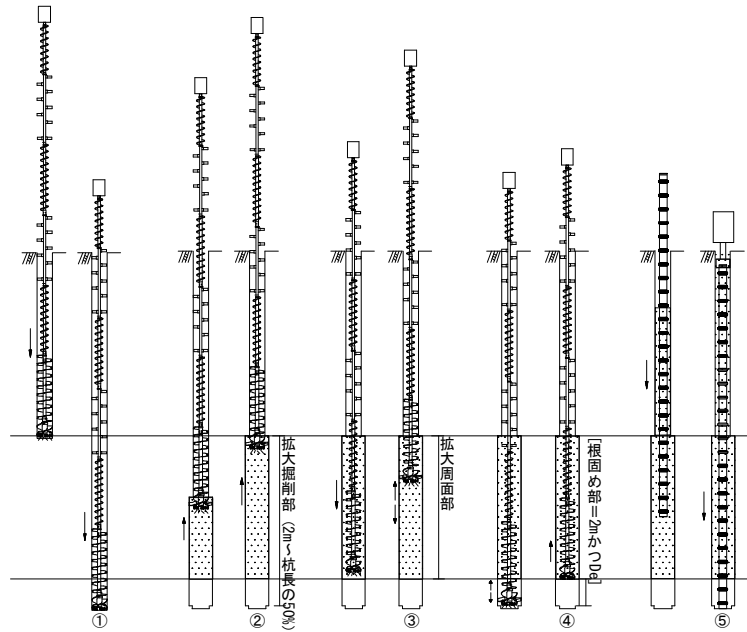
## 3. 試験杭

- 1) 試験杭の位置および数量は、地盤調査・敷地状況・建築物の平面計画等を考慮し、監督員と協議して決定する。
- 2) 試験杭は、本工事に先立ち、設計・施工計画の妥当性を確認するために実施する。
- 3) 試験杭では、本工事と同一寸法の杭、本工事に使用予定の機械器具を用いることを原則とし、次の項目について確認する。
  1. 施工能率
  2. 地中障害の有無
  3. 使用機械の適否
  4. 高止まりの有無
  5. 逸水の有無
  6. 先端地盤の確認
  7. 拡翼の確認

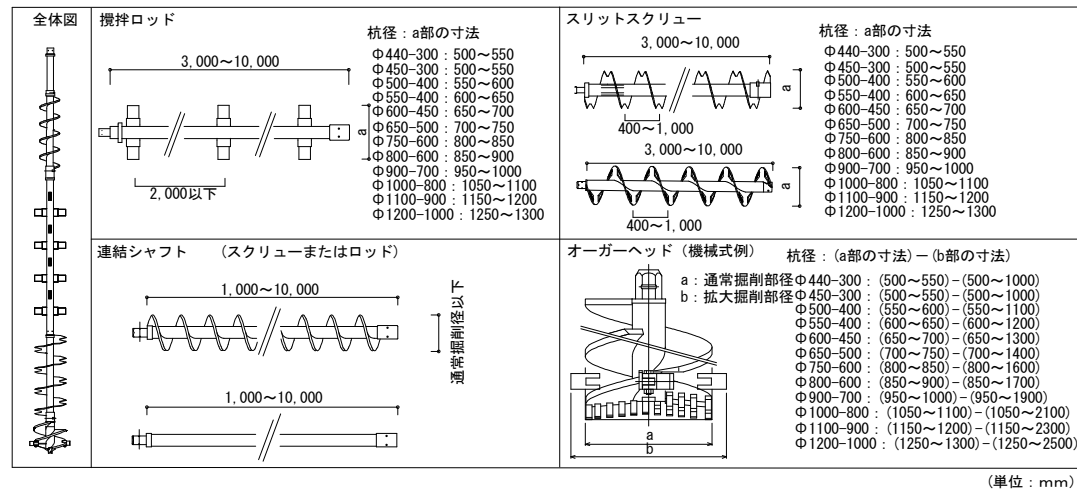
## 4. 施工方法

本工法の標準的な施工手順を下図に示し、その概要を以下に記述する。

- ①施工機据え付け・杭芯セッ  
掘削芯を確認しつつ、適宜、掘削液を送りながら地盤に適した速度で所定の位置まで掘削する。
- ②拡翼・拡大掘削  
拡大羽根を拡翼し、充填液を吐出しながら、所定の深度まで、拡大掘削して引き上げる。
- ③再掘削・混合攪拌  
拡大羽根を閉翼させ、拡大周面部を掘削した後に再度拡翼し、拡大周面部でオガーを上下反復する。その際に充填液と掘削土砂とを混合攪拌し、拡翼で所定深度に到達するまで且つ3回以上これを繰り返す。
- ④根固め部築造・引き上げ  
所定範囲にて根固め液を注入しながら、根固め部で上下反復を3回以上、且つ3分以上、混合攪拌し根固め部を築造した後、オガーを引き上げる。
- ⑤杭の建て込み  
鉛直性を確認しながら杭を建て込み、所定位置に定着させる。



## 5. 掘削装置の形状および寸法



## 6. 充填材の配合と管理

- 1) 材料
  1. セメントは、普通ポルトランドセメント、早強セメントおよび混合セメントを用いる。
  2. 練り混ぜに使用する水は、上水道水またはセメント硬化に悪影響のない水とする。
- 2) 杭周充填液 (W/C=100%・圧縮強さ：10N/mm<sup>2</sup>)  
杭周充填液は、杭体と地盤とを一体化させる目的で注入する。  
杭周充填液材料の基準量(対象土1mあたり)を下表に示す。

セメント種類	水セメント比 W/C (%)	セメント C (kg)	水 W (%)	注入量 (㎡)
普通ポルトランドセメント	100	380	380	0.500
高炉セメントB種	100	377	377	0.500

\* 普通ポルトランドセメント：比重3.15、高炉セメント：比重3.05

- 3) 根固め液  
杭先端部に、先端支持力を確保するために拡大根固め部の体積量を注入し、杭先端平均N値 (N) と拡大比 (ω) に応じて、水セメント比は下記を標準とする

拡大比	水セメント比		
	N ≤ 20	20 < N ≤ 40	40 < N
1.0 ≤ ω ≤ 1.25	100% (10N/mm <sup>2</sup> )	85% (17N/mm <sup>2</sup> )	65% (22N/mm <sup>2</sup> )
1.25 < ω ≤ 1.75	85% (17N/mm <sup>2</sup> )	60% (25N/mm <sup>2</sup> )	60% (25N/mm <sup>2</sup> )
1.75 < ω ≤ 2.0	85% (17N/mm <sup>2</sup> )	60% (25N/mm <sup>2</sup> )	55% (30N/mm <sup>2</sup> )

\* ( ) 内は、管理強度

- 4) 強度の管理  
管理試験は、充填液について下表により行う。

杭の種類		回数
試験杭		1本毎
本杭	継ぎ手のある場合	20本またはその端数につき1回
	継ぎ手のない場合	30本またはその端数につき1回

1. 1回の試験の、供試体の数は杭周充填液および根固め液を各3個とする。
2. 供試体は、(社)土木学会「コンクリート標準示方書(規準編)」のフリージング率および膨張率試験方法(体積方法)によるポリエチレン袋を用いて、グラウトプラントより採取し、直径50mm・高さ100mm程度の円柱形に仕上げる。
3. 強度試験は、JIS A 1108 (コンクリートの圧縮試験方法)による。
4. 充填液の圧縮強さは、材齢28日として管理する。(上記3) 根固め液 参照)
5. 杭周充填液および根固め液の密度測定を1日1回行う。

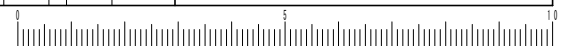
## 7. 施工記録

1. 工事概要・組織
2. 実施工程表
3. 使用杭の仕様・諸元
4. 充填液の配合・使用量・試験結果
5. 使用機械器具
6. 試験杭施工記録
7. 本杭施工記録
8. その他必要事項

## 8. 安全・公害対策

- 1) 安全対策
  1. 災害の種類  
杭の施工に伴って発生する可能性のある労働災害には、杭打機の転倒・接触・挟まれ・巻き込まれ・衝突・飛来落下・墜落・感電等がある。
  2. 災害の防止
    - a) 作業指揮者および作業者は、予め定めた手順に従って規律ある正しい作業を行い、安全活動には全面的・積極的に参加する。
    - b) 各種機械の運転者は、使用する機械器具の使用前点検を行い、損傷・変形・機能不具合等があれば修理・交換等必要な措置を講じ、その記録を残す。
    - c) 杭打機の組立・据え付け・解体は、予め定めた計画に基づき、作業指揮者の指揮のもとに行う。
    - d) 現場内の作業地盤は平坦にし、軟弱地盤の場合は転倒防止のためにサンドマット・敷き鉄板・地盤改良等で補強を行う。
    - e) 杭打機等機械器具の運転は専任の者によることとし、資格を要する作業は必ず有資格者が行う。
    - f) 鉄道・道路・高圧架線・電灯線・通信線・建築物・地下埋設物等既存のものに近接して作業を行う場合は、元請業者と打ち合わせを行い、関係者の立ち会いを求め等して事故防止につとめる。
    - g) 作業者または第三者の接触・挟まれ・転落落下をおこさないように、立入禁止措置または監視・誘導を充分に行う。
    - h) 現場での作業開始前に、作業員全員による打ち合わせ・確認を行い、作業者の配置(役割分担)を定め、元請業者への届け出を行う。
- 2) 公害対策  
本工法の施工に伴って発生する可能性のある公害は、騒音・振動・粉塵・地盤沈下・地下水汚染・泥土や泥水の場外流出による汚損・土砂の飛散等がある。これらが発生して、近隣環境や第三者に影響を及ぼすことのないよう充分に留意する。

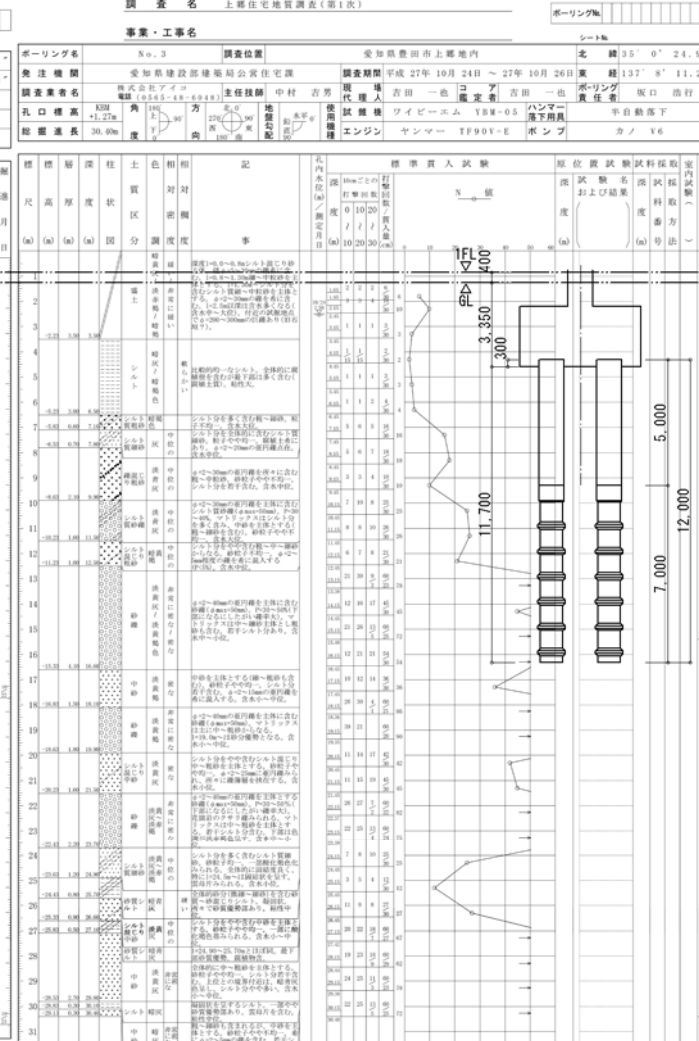
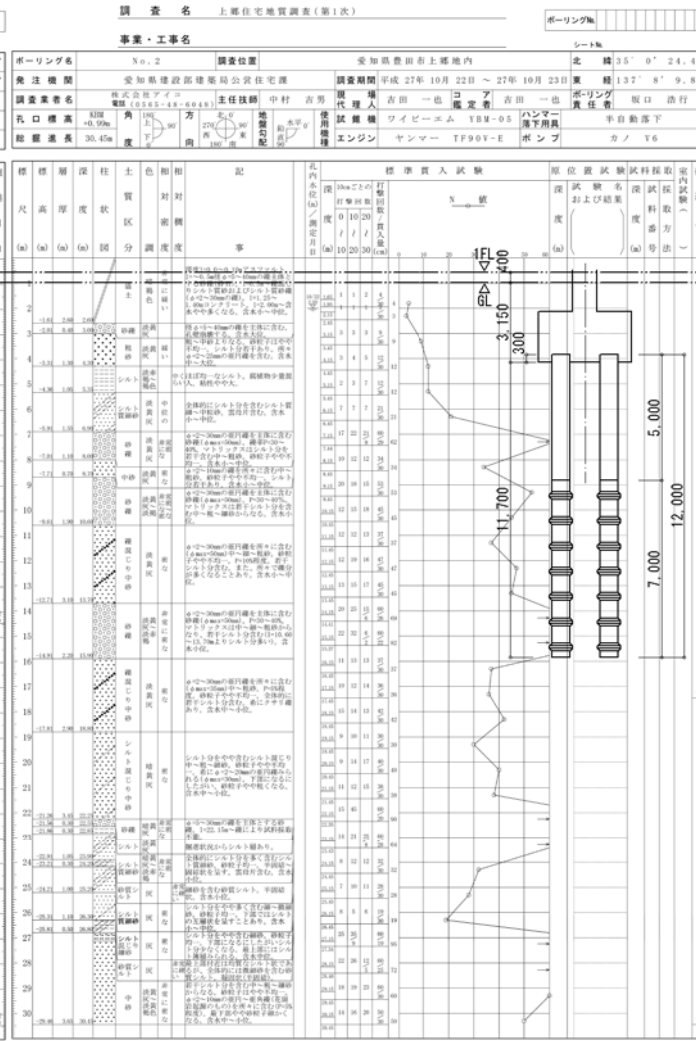
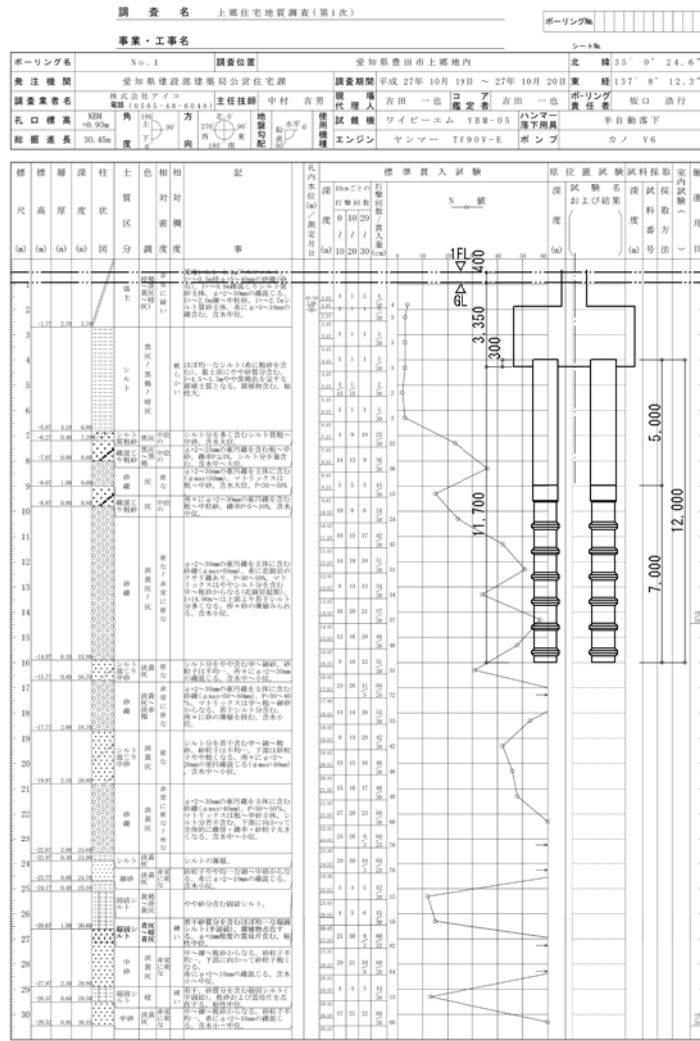
一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 111627	上郷住宅建築工事(第2工区)	図面番号
一級建築士登録 87253号 坂田 孝之	プレボーリング拡底根固め工法 (大臣認定工法) 特記仕様書	縮尺 A1:一 A3:二 No. S-K
一級建築士事務所 匠設計、愛知県知事登録(い-24) 第11595号 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課



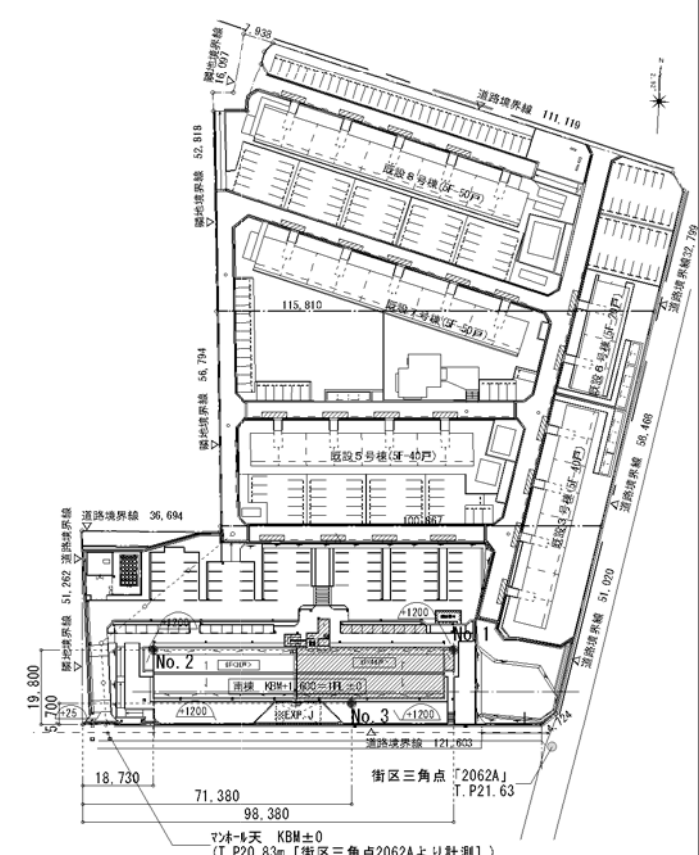
ボーリング柱状図

ボーリング柱状図

ボーリング柱状図



ボーリング柱状図 S=A1:1/150・A3:1/300



<註記>

1. KBM±0=T. P20.83
2. GL=KBM+1200=1FL-400
3. 各ボーリング柱状図削孔部既設地表面地盤高さ削孔長は下記のとおり
  - No. 1 地盤高さ=T. P21.76m=KBM+0.93m 削孔長=30.45m
  - No. 2 地盤高さ=T. P21.82m=KBM+0.99m 削孔長=30.45m
  - No. 3 地盤高さ=T. P22.10m=KBM+1.27m 削孔長=30.40m

<凡例>

1. [影線] は、今回工事建物を示す。
2. [円] 内数値は、建物周囲計画地盤高さを示す。

一級建築士事務所 株式会社 <b>黒野建築設計事務所</b> 一級建築士事務所登録 愛知県 L1627 一級建築士登録番号307737号 安楽 広品	上郷住宅建築工事(第2工区) ボーリング柱状図、位置図 A1:1/1000, 1/150 A3:1/2000, 1/300	図面番号 <b>No. S-01</b>
一級建築士事務所 匠建設、愛知県事登録(L-24)第11595号 一級建築士 92463号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課

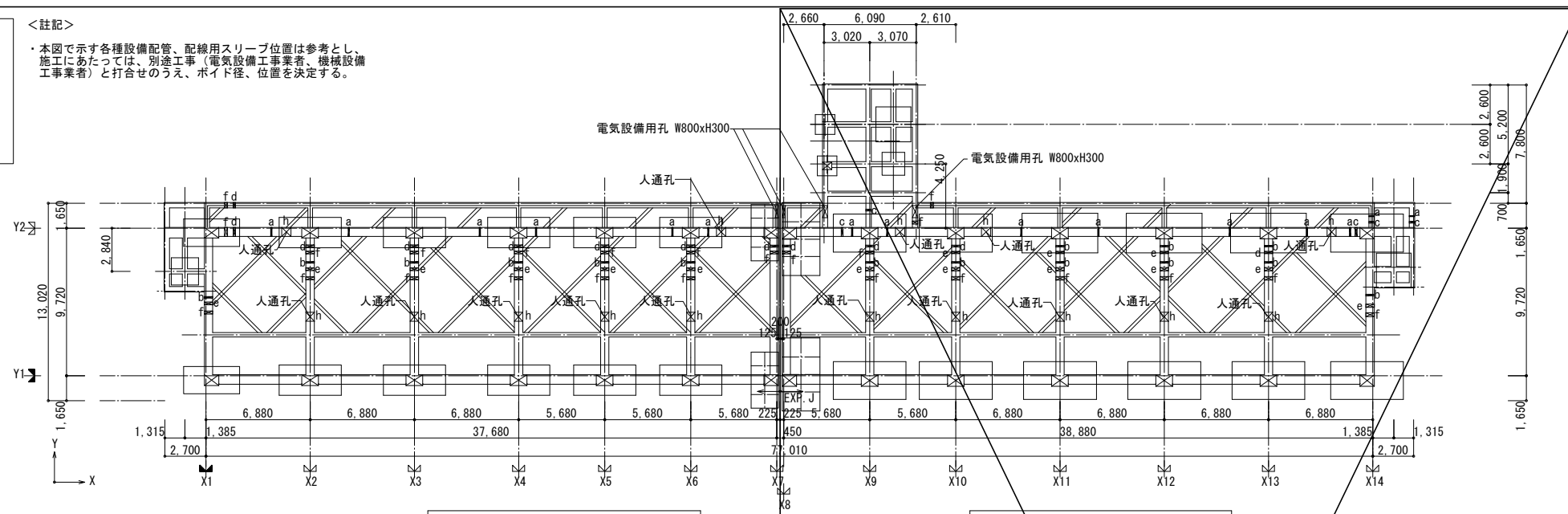




ボイド内径一覧  
(単位: mm)

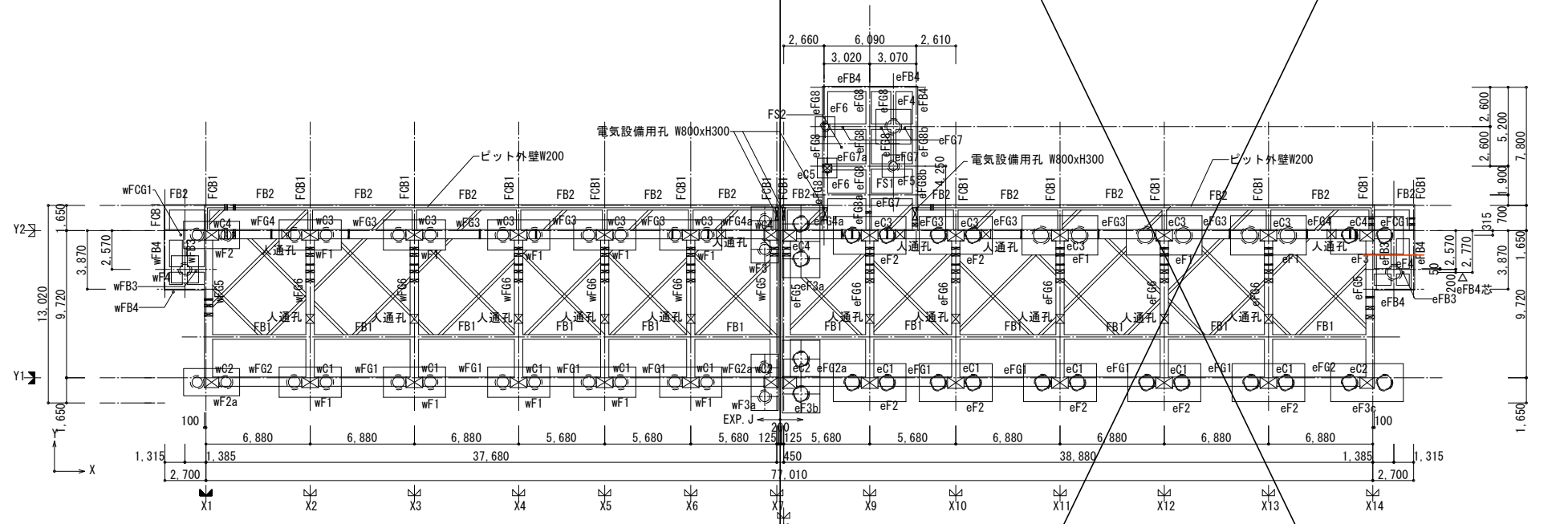
a	: 75
b	: 100
c	: 125
d	: 150
e	: 175
f	: 200
g	: 250
h	: 600

＜注記＞  
・本図で示す各種設備配管、配線用スリーブ位置は参考とし、施工にあたっては、別途工事（電気設備工事業者、機械設備工事業者）と打合せのうえ、ボイド径、位置を決定する。



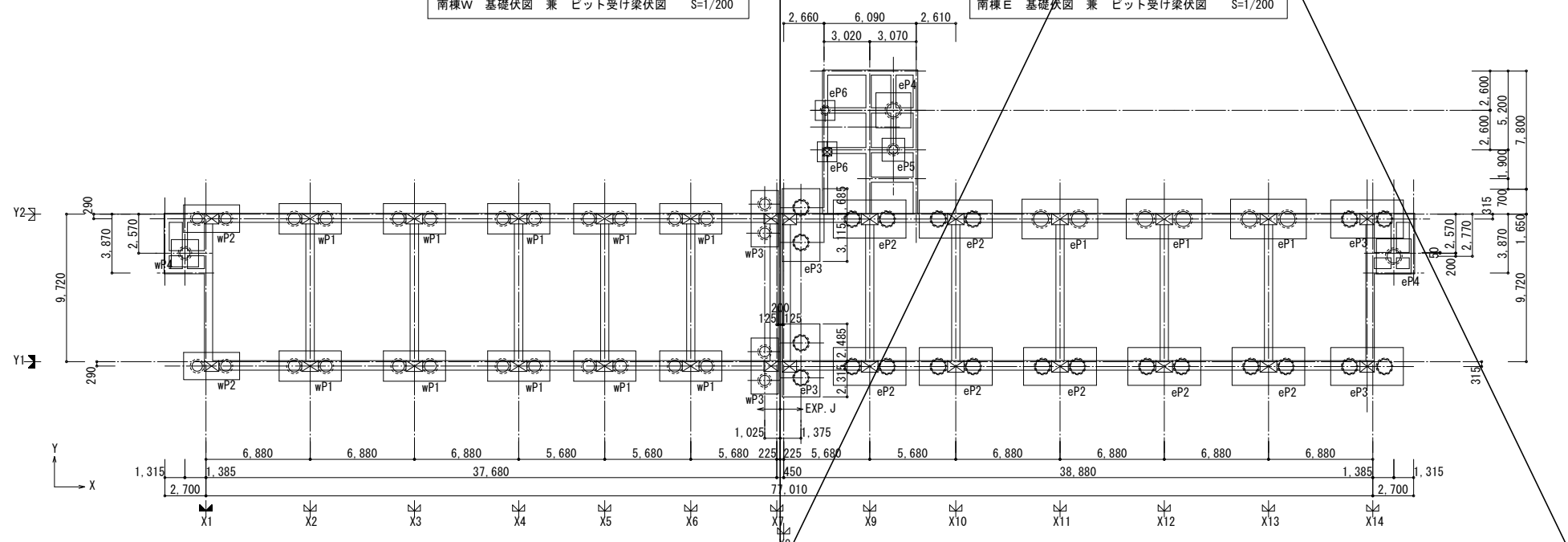
南棟W 地中梁 スリーブ位置図 S=1/200

南棟E 地中梁スリーブ位置図 S=1/200



南棟W 基礎伏図 兼 ピット受け梁伏図 S=1/200

南棟E 基礎伏図 兼 ピット受け梁伏図 S=1/200



南棟W 杭伏図 S=1/200

南棟E 杭伏図 S=1/200

使用構造材料

○ コンクリート

使用箇所	種類	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	スランプ (cm)	備考
柱、梁、壁、床	6階柱～R階床・梁	普通 Fc = 27	18	
	3階柱～6階床・梁	普通 Fc = 30	18	
	1階柱～3階床・梁	普通 Fc = 33	18	
基礎、基礎梁、地階	普通	Fc = 33	18	
土間コンクリート	普通	Fc = 18	15	
捨てコンクリート	普通	Fc = 18	15	
押えコンクリート	普通	Fc = 18	15	

\* コンクリートは、JIS 認定工場で製造されたレディーミクストコンクリートとする。  
 \* セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。  
 \* 水セメント比は、50%以下とする。(住宅性能基準：等級3)  
 \* 呼び強度は、設計基準強度 (Fc) + ΔF + 温度補正 (T) とする。(場所打ち杭コンクリートは温度補正値を除く。)  
 ΔF : 構造物コンクリートの強度と供試体の強度の差を考慮した割増し (3 N/mm<sup>2</sup>)  
 \* 単位水量の最大値は、185 Kg/m<sup>3</sup> とする。  
 \* コンクリート中の空気量は、4.5%とする。(ただし減水剤を使用しない場合は空気量4～6%)  
 \* 単位セメント量の最小値は、270 Kg/m<sup>3</sup> (Fc=27N 以上 36N 以下は、290～450 Kg/m<sup>3</sup>)  
 \* 最小かぶり厚さは、住宅性能表示基準の等級3「3-1(3)h①b(i)表(ろ)(イ)」とする。  
 \* 試験杭実施か所、本数は、監督員協議のうえ決定とする。

○ 鉄筋

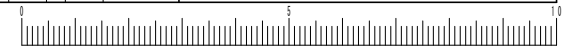
種類	材料	径	備考
異形鉄筋	SD295A	D10～D16	
	SD345	D19～D25	
	SD390	D29～D32	
高強度せん断補強筋 (大臣認定品)	ウルボン SBDP1275/1420 リバーボン 1275 相当		柱: 溶接スターラップ (大臣認定番号 MSR8-9009)

\* 鉄筋は、JIS G3112 の規格品を標準とする。  
 \* 継手は、D16 以下をすべて重ね継手とする。D19 以上はガス圧接または機械式継手とする。

- 注) 特記事項 (記入なき限り下記とする)
- Z1=Z0+400とする。
  - 基礎梁天端は Z0+150とする。
  - は土間コンクリートを示す。(ピット部天端 Z0+950) (Y2通～+1650、廊下下部)  
コンクリート t=120、鉄筋 タテ・ヨコ共 D10 - @200 シングル
  - は土間コンクリートを示す。(ピット部天端 Z0+1050) (住戸下部)  
コンクリート t=120、鉄筋 タテ・ヨコ共 D10 - @200 シングル
  - は人通孔 (600φ) を示す。
  - は電気設備用貫通孔 (W800xH300) を示す。

一級建築士事務所 匠建設設計、愛知県知事登録 (イ-24) 第11595号  
 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人

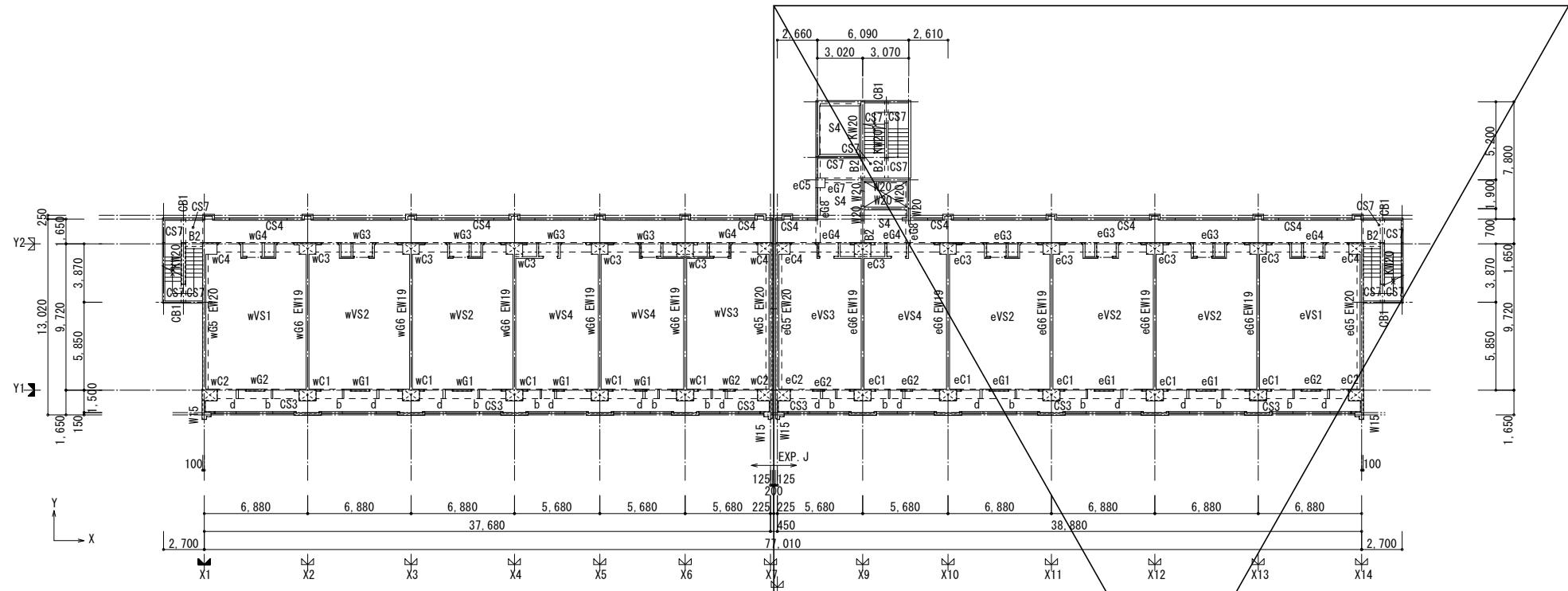
一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区) 南棟W・E 伏図 (杭・基礎・スリーブ位置)	図面番号 No. S-02
一級建築士登録 307737号 安永 広品	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	
検図 製図 設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	



ポイド内径一覧  
(単位: mm)

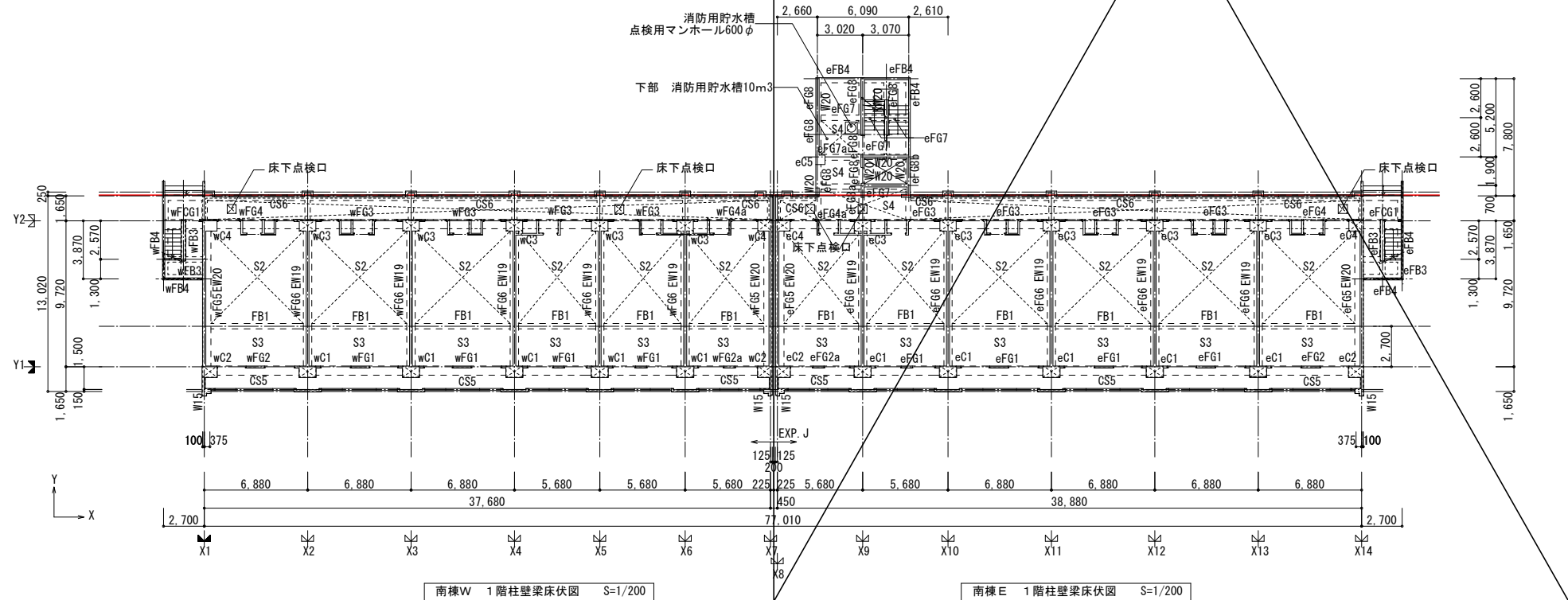
a	: 75
b	: 100
c	: 125
d	: 150
e	: 175
f	: 200
g	: 250
h	: 600

<註記>  
・本図で示す各種設備配管、配線用スリーブ位置は参考とし、施工にあたっては、別途工事（電気設備工事業者、機械設備工事業者）と打合せのうえ、ポイド径、位置を決定する。



南棟W 2階柱壁梁床伏図 S=1/200

南棟E 2階柱壁梁床伏図 S=1/200



南棟W 1階柱壁梁床伏図 S=1/200

南棟E 1階柱壁梁床伏図 S=1/200

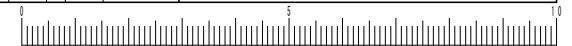
<註記>  
・地中梁スリーブは、S-02号図による。

- 注) 特記事項 (記入なき限り下記とする)
1. スラブ天端は Zn±0とする。
  2. RFスラブ天端は意匠図による。
  3. [ ] 内数値はスラブ天端レベル (Zn基準) を示す。
  4. は、スラブ天端 Zn-100を示す。
  5. 1 はスラブの主筋方向を示す。
  6. 梁天端は Zn±0とする。  
wRG1~4, eRG1~4 梁天端レベルは Zn-200とする。  
wRG5~6, eRG5~6 梁天端レベルは意匠図による。
  7. ( ) 内数値は梁天端レベル (Zn基準) を示す。
  8. 壁は W12とする。
  9. 基準階階段室・EVホールのスラブ意匠図による。
  10. はビット範囲を示す。
  11. は床下点検口 (600x600) を示す。
  12. は土間コンクリートを示す。(E)はランス、階段下部  
コンクリート t=120、鉄筋 タテ・ヨコ共 D10 - @200 シングル

<凡例>  
1. : 下部ビット範囲を示す。

一級建築士事務所 匠設計、愛知県知事登録 (L-24) 第11595号  
一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区)	図面番号
一級建築士登録 307737号 安東 広品	南棟W・E 伏図 (1階~2階)	No. S-03
検 図	製 図	縮 尺 A1: 1/200 A3: 1/400
設計 H28年3月		愛知県建設部建築局公営住宅課

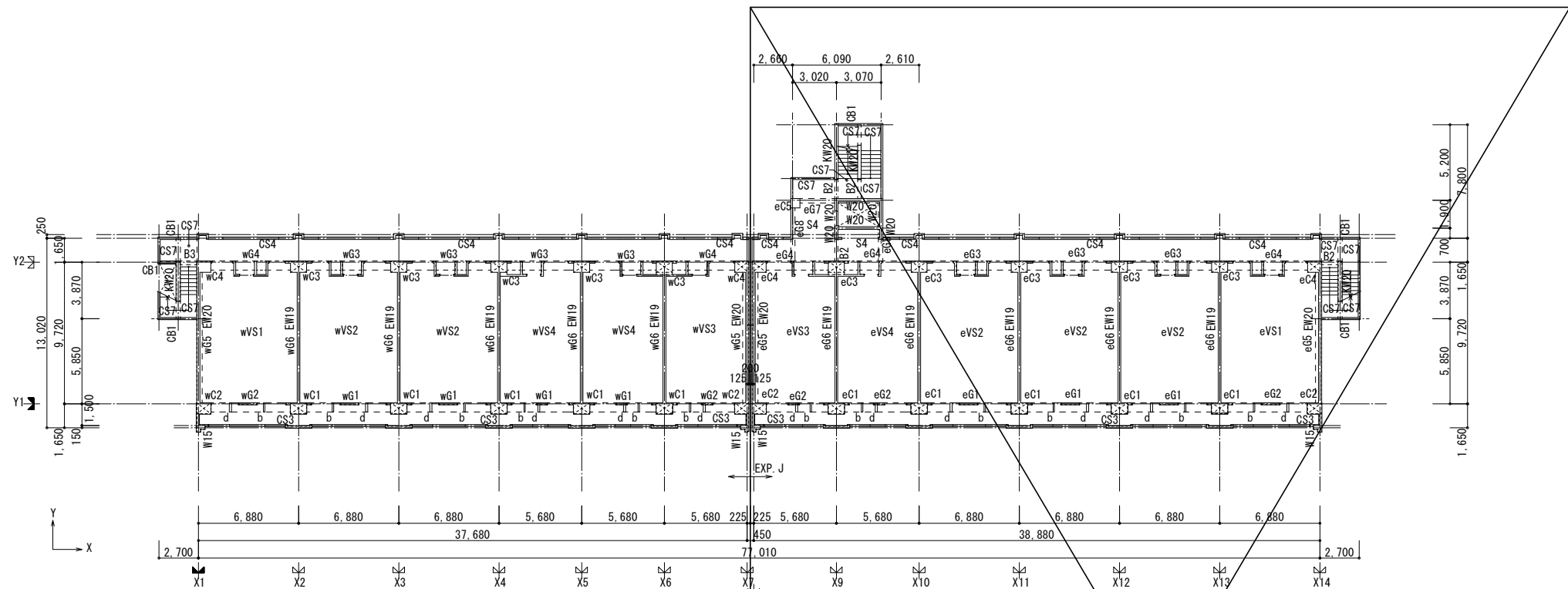


ポイド内径一覧  
(単位: mm)

- a: 75
- b: 100
- c: 125
- d: 150
- e: 175
- f: 200
- g: 250
- h: 600

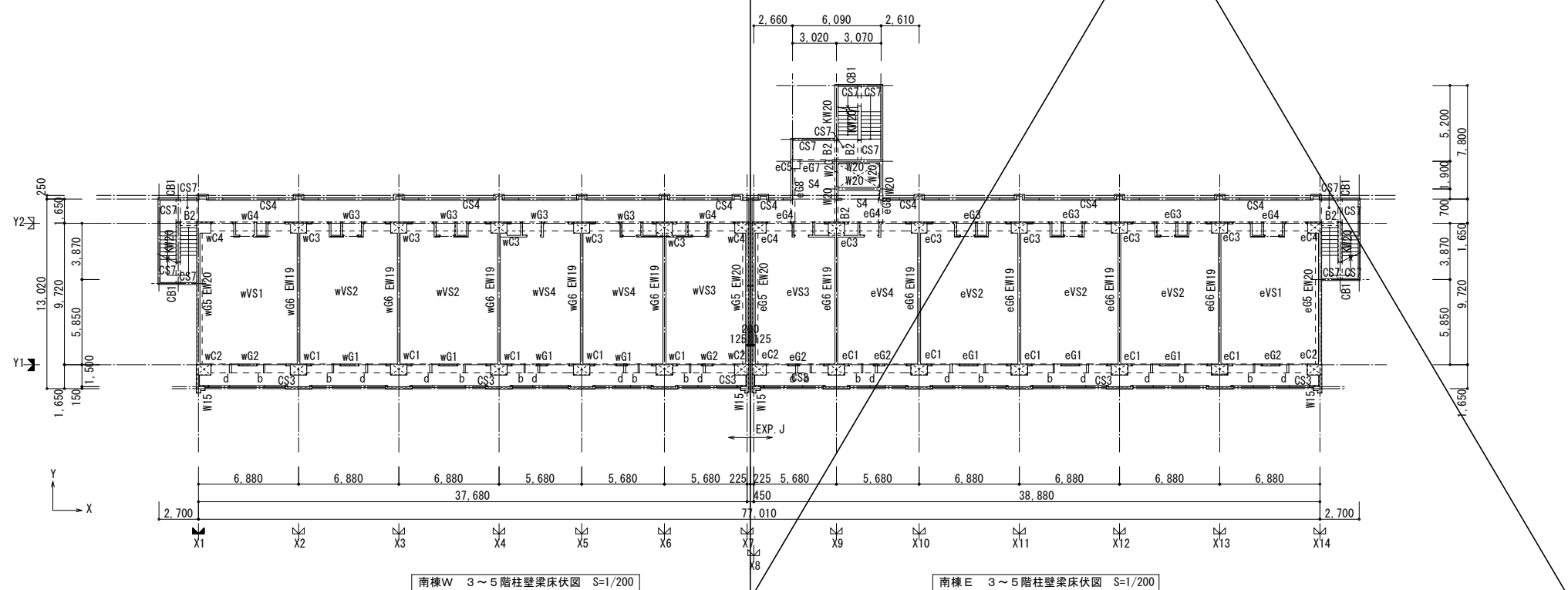
< 註記 >

・本図で示す各種設備配管、配線用スリーブ位置は参考とし、施工にあたっては、別途工事（電気設備工事業者、機械設備工事業者）と打合せのうえ、ポイド径、位置を決定する。



南棟W 6階柱壁梁床伏図 S=1/200

南棟E 6階柱壁梁床伏図 S=1/200



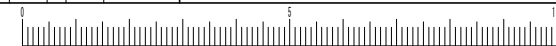
南棟W 3~5階柱壁梁床伏図 S=1/200

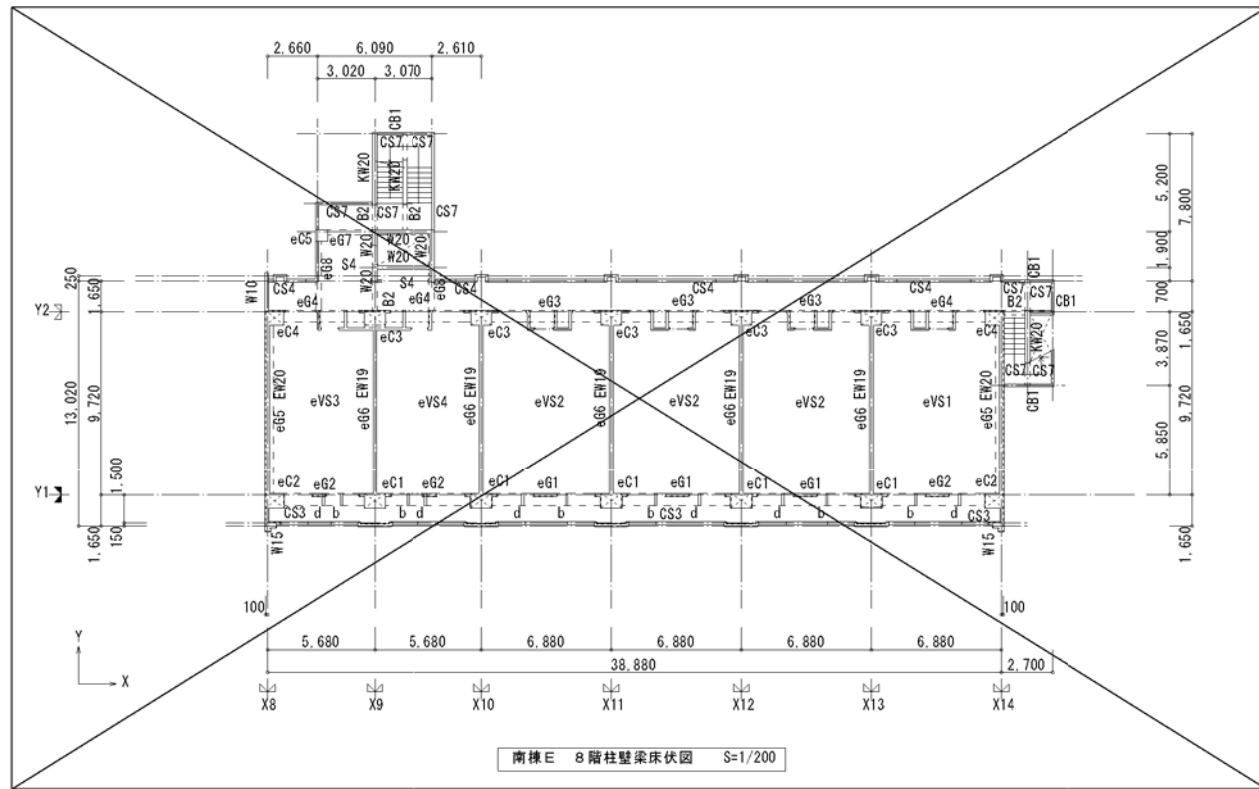
南棟E 3~5階柱壁梁床伏図 S=1/200

- 注) 特記事項 (記入なき限り下記とする)
1. スラブ天端は Zn±0とする。
  2. RFスラブ天端は意匠図による。
  3. [ ] 内数値はスラブ天端レベル (Zn基準) を示す。
  4. は、スラブ天端 Zn-100を示す。
  5. ↑ はスラブの主筋方向を示す。
  6. 梁天端は Zn±0とする。  
wRG1~4, eRG1~4 梁天端レベルは Zn-200とする。  
wRG5~6, eRG5~6 梁天端レベルは意匠図による。
  7. ( ) 内数値は梁天端レベル (Zn基準) を示す。
  8. 壁は W12とする
  9. 基準階階段室・E Vホールのスラブレベルは意匠図による。

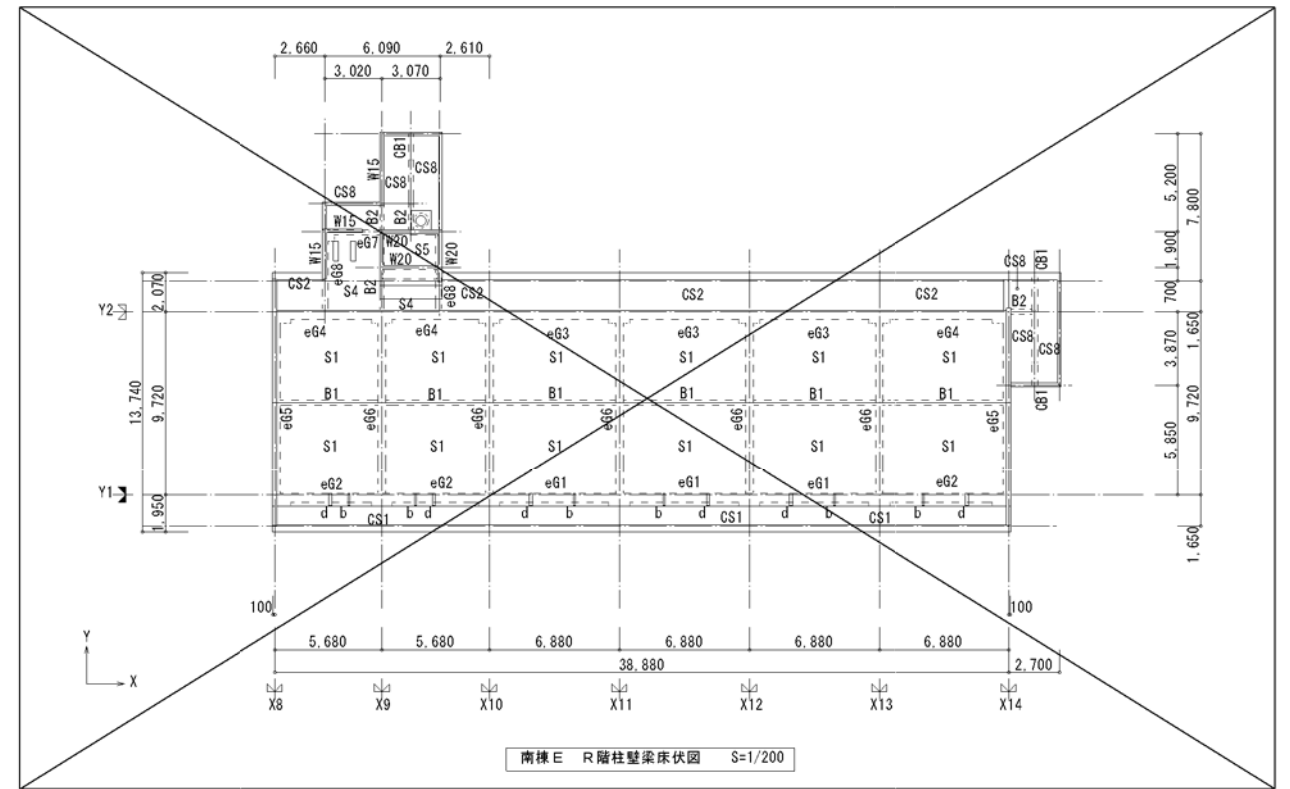
一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区)	図面番号
一級建築士登録 307737号 安東 広品	南棟W・E 伏図 (3階~6階)	No. S-04
縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400		
製図 設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

一級建築士事務所 匠設計、愛知県知事登録 (イ-24) 第11595号  
一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人

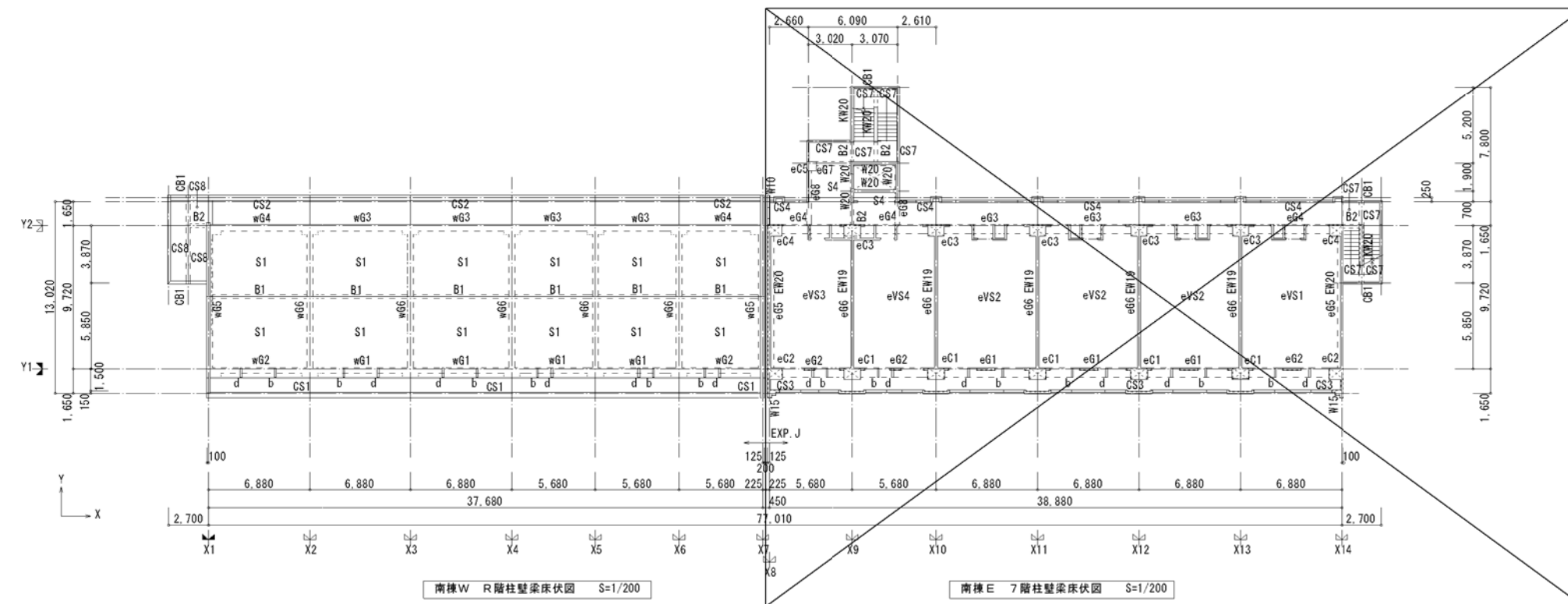




南棟E 8階柱梁床伏図 S=1/200



南棟E 8階柱梁床伏図 S=1/200



南棟W 8階柱梁床伏図 S=1/200

南棟E 7階柱梁床伏図 S=1/200

ボイド内径一覧  
(単位: mm)

a	: 75
b	: 100
c	: 125
d	: 150
e	: 175
f	: 200
g	: 250
h	: 600

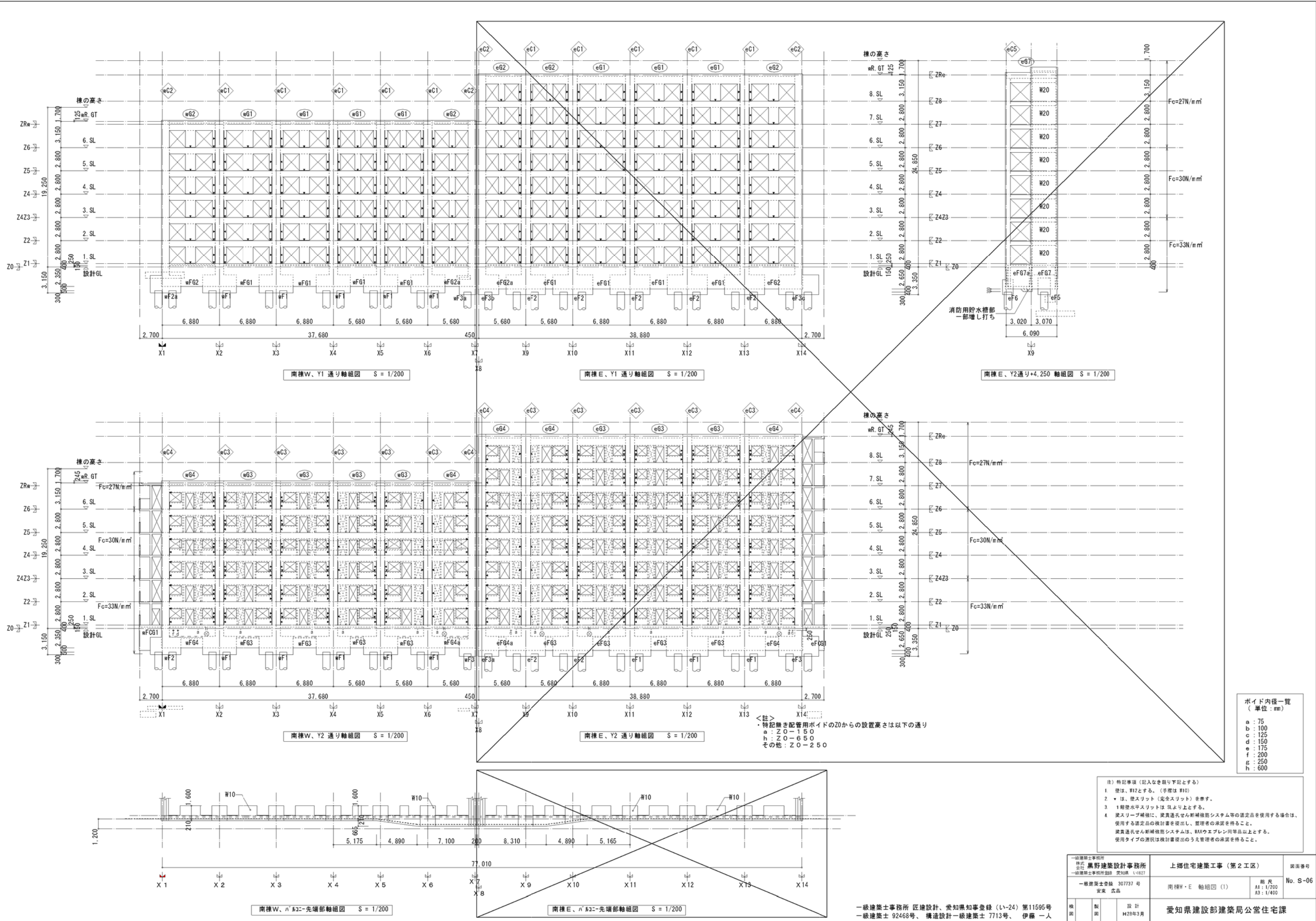
<註記>  
・本図で示す各種設備配管、配線用スリーブ位置は参考とし、施工にあたっては、別途工事（電気設備工事業者、機械設備工事業者）と打合せのうえ、ボイド径、位置を決定する。

- 注) 特記事項（記入なき限り下記とする）
1. スラブ天端は  $Zn \pm 0$  とする。
  2. RFスラブ天端は意匠図による。
  3. [ ] 内数値はスラブ天端レベル ( $Zn$ 基準) を示す。
  4. [斜線] は、スラブ天端  $Zn-100$  を示す。
  5. I はスラブの主筋方向を示す。
  6. 梁天端は  $Zn \pm 0$  とする。  
wRG1~4, eRG1~4 梁天端レベルは  $Zn-200$  とする。  
wRG5~6, eRG5~6 梁天端レベルは意匠図による。
  7. ( ) 内数値は梁天端レベル ( $Zn$ 基準) を示す。
  8. 壁は W12 とする
  9. 基準階階段室・EVホールのスラブ意匠図による。

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 1-19227	上郷住宅建築工事 (第2工区)	図面番号
一級建築士登録 307737号 安家 広品	南棟W R階床伏図 南棟E 7~R階床伏図	No. S-05
規模 製 設計 H28年3月	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	
愛知県建設部建築局公営住宅課		

一級建築士事務所 匠設計、愛知県知事登録 (い-24) 第11595号  
一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人





南棟W、Y1 通り軸組図 S = 1/200

南棟E、Y1 通り軸組図 S = 1/200

南棟E、Y2通り+4.250 軸組図 S = 1/200

南棟W、Y2 通り軸組図 S = 1/200

南棟E、Y2 通り軸組図 S = 1/200

南棟W、A' 軸に先端部軸組図 S = 1/200

南棟E、A' 軸に先端部軸組図 S = 1/200

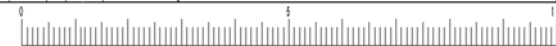
ボイド内径一覧  
(単位: mm)

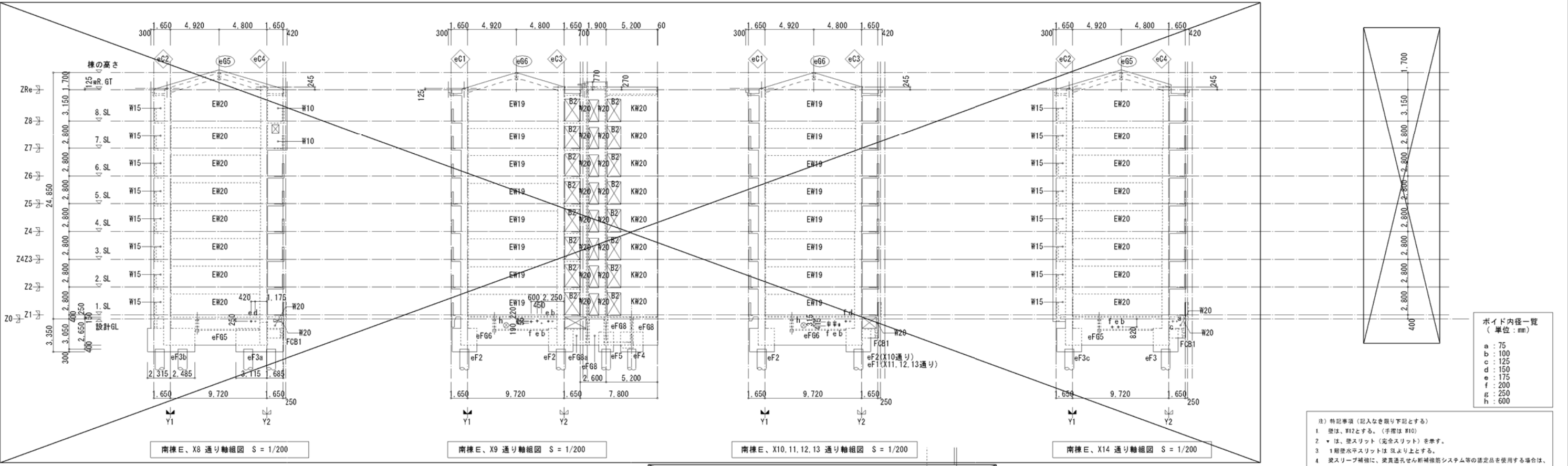
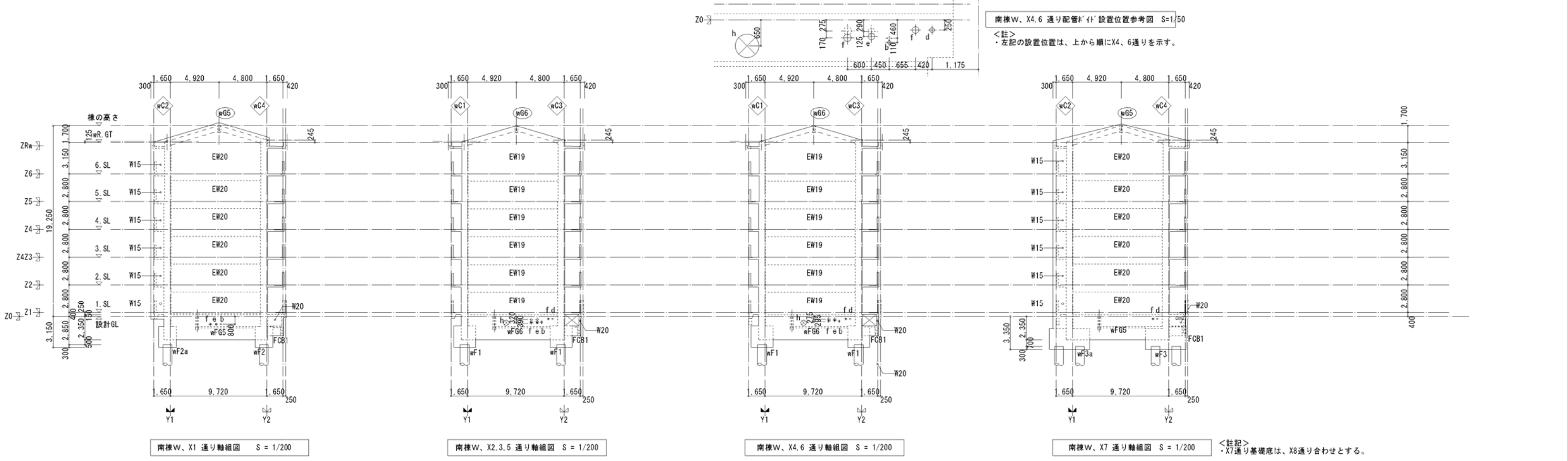
a	: 75
b	: 100
c	: 125
d	: 150
e	: 175
f	: 200
g	: 250
h	: 600

特記無き配管用ボイドのZ0からの設置高さは以下の通り  
 a: Z0 - 150  
 b: Z0 - 650  
 その他: Z0 - 250

- 注) 特記事項 (記入なき限り下記とする)
- 壁は、R12とする。(手摺は R10)
  - は、壁スリット (完全スリット) を示す。
  - 1階壁水平スリットは SLより上とする。
  - 梁スリーブ補強に、梁貫通せん断補強システム等の認定品を使用する場合は、使用する認定品の検討書を提出し、監理者の承認を得ること。梁貫通せん断補強システムは、MAXウエブレン同等品以上とする。使用タイプの選択は検討書提出のうえ管理者の承認を得ること。

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 11627	上郷住宅建築工事 (第2工区) 南棟W・E 軸組図 (1)	図面番号 No. S-06
一級建築士登録 307737号 安家 成広	船長 A1: 1/200 A3: 1/400	
一級建築士事務所 匠建設設計、愛知県知事登録 (い-24) 第11595号 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人	愛知県建設部建築局公営住宅課	





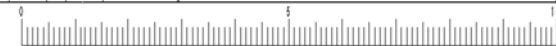
ポイド内径一覧  
(単位: mm)

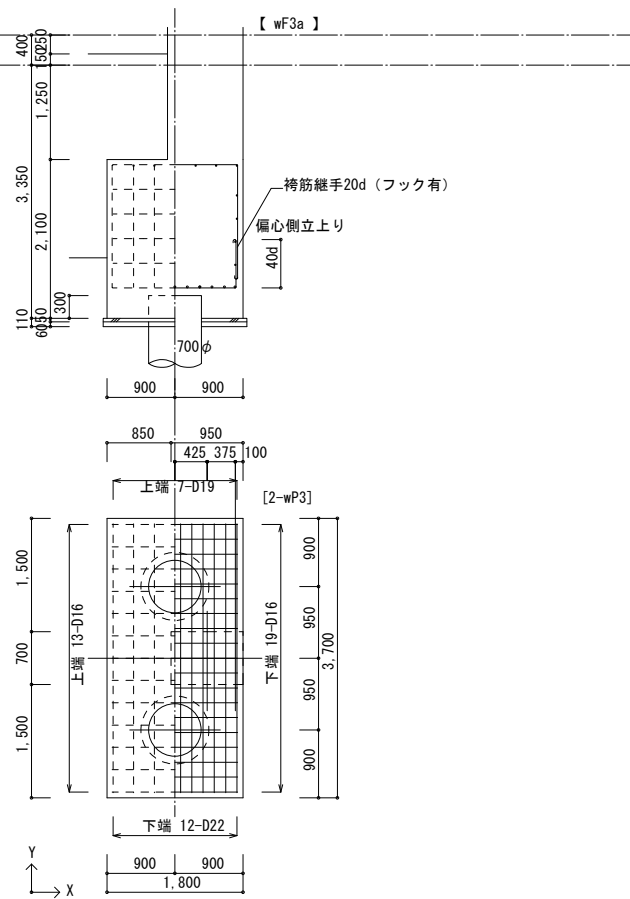
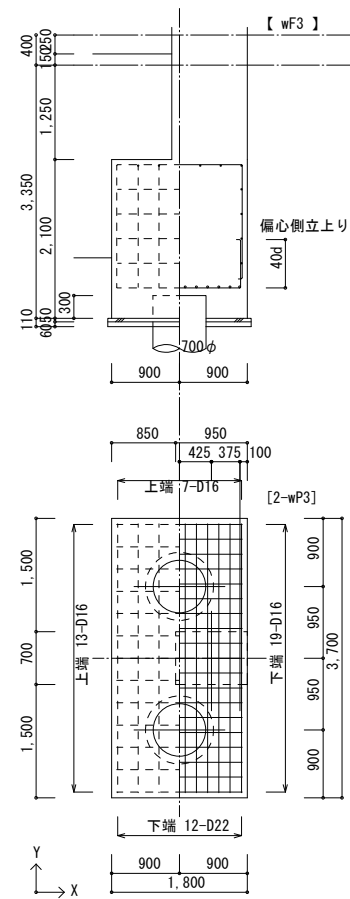
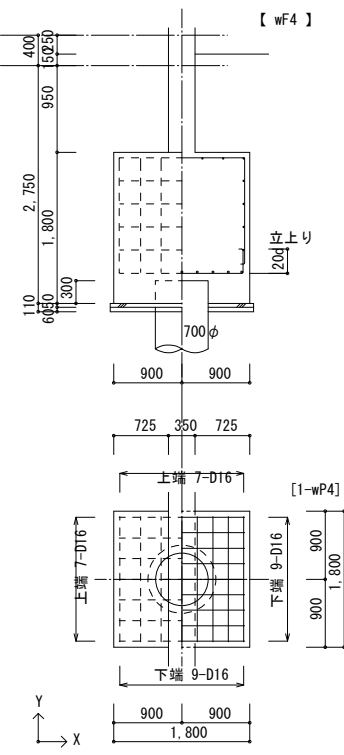
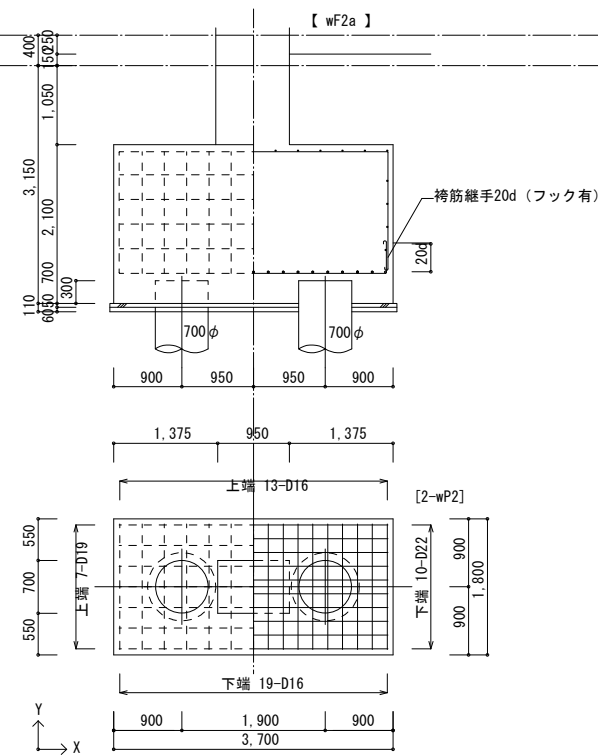
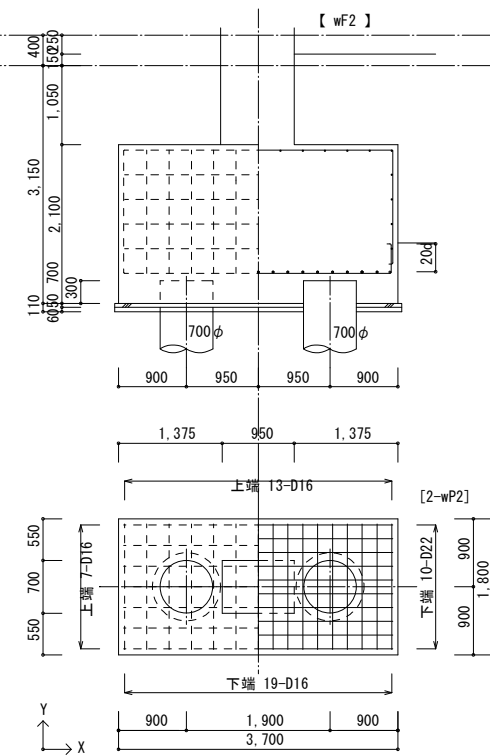
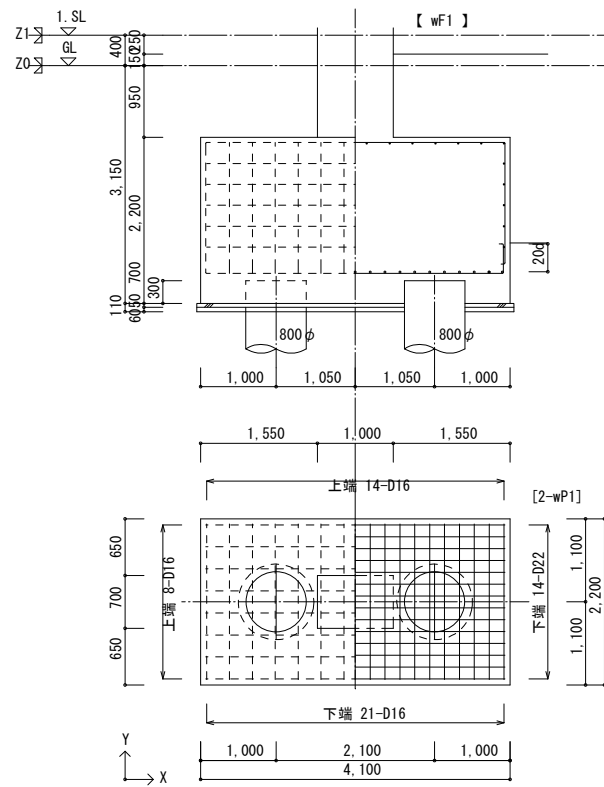
a	75
b	100
c	125
d	150
e	175
f	200
g	250
h	600

- (注) 特記事項 (記入なき限り下記とする)
- 壁は、W12とする。(手摺は W10)
  - ▼は、壁スリット (完全スリット) を示す。
  - 1階壁水平スリットは SLより上とする。
  - 梁スリーブ補強に、梁貫通せん断補強筋システム等の認定品を使用する場合は、使用する認定品の設計書を提出し、監理者の承認を得ること。梁貫通せん断補強筋システムは、WAXウェレックス同等品以上とする。

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 4-14627 一級建築士登録 307737号 安永 成広	上郷住宅建築工事 (第2工区) 南棟W・E 軸組図 (2) 縮尺 A1: 1/50, 1/200 A3: 1/100, 1/400	図面番号 No. S-07
検査 製図 設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

一級建築士事務所 匠設計、愛知県知事登録 (い-24) 第11595号  
 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人





一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区) 南棟W 基礎リスト	図面番号 No. S-08
一級建築士登録 307737号 安東 広品	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	

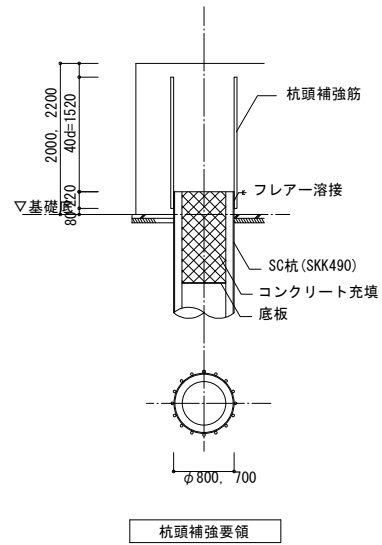
一級建築士事務所 匠建設、愛知県知事登録 (い-24) 第11595号  
 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人



※ 巾止め筋は D10 @1000 とする。

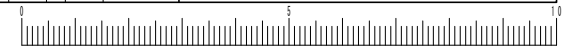
符号	wFG1		wFG2			wFG2a			wFG3		wFG4			wFG4a		
	端部	中央	X1端	中央	X2端	X6端	中央	X7端	端部	中央	X1端	中央	X2端	X6端	中央	X7端
断面																
巾×成	550 x 2500		550 x 2500			650 x 2500			550 x 2500		550 x 2500			650 x 2500		
上端筋	5-D32	5-D32	5/2-D32	5/2-D32	5-D32	6/5-D32	6/5-D32	6/5-D32	5-D32	5-D32	5/2-D32	5/2-D32	5-D32	6/5-D32	6/5-D32	6/5-D32
下端筋	5-D32	5-D32	5/2-D32	5/2-D32	5-D32	6/1-D32	6/1-D32	6/1-D32	5-D32	5-D32	5/2-D32	5/2-D32	5-D32	6-D32	6-D32	6-D32
S T P	2-D13 @200		2-D13 @200			3-D13 @100			2-D13 @200		2-D13 @200			3-D13 @100		
腹筋	14-D10		14-D10			14-D10			14-D10		14-D10			14-D10		

符号	wFG5		wFG6		wFG1	FB1	FB2	wFB3	wFB4	FCB1
	端部	中央	端部	中央	全域	全域	全域	全域	全域	全域
断面										
巾×成	550 x 2500		550 x 2500		550 x 2500	350 x 1500	350 x 800	350 x 2500	300 x 2500	350 x 800
上端筋	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	5/2-D32	3-D22	3-D22	3-D25	3-D22	4/2-D22
下端筋	5-D32	5-D32	5-D32	5-D32	3-D32	3-D22	3-D22	3-D25	3-D22	3-D22
S T P	2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @100
腹筋	14-D10		14-D10		14-D10	8-D10	2-D10	14-D10	16-D10	2-D10



杭仕様

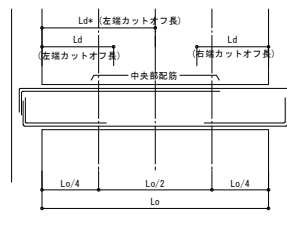
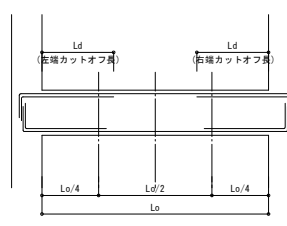
杭符号	使用箇所	杭種	杭径	杭長	杭頭補強筋	長期支持力 (kN/P)	杭本数	工法
wP1	wF1	上杭 SKK490 (105N) t=12.0	HSC105	φ800	12 m	16-D38 (WSD390)	3000	2x10
		下杭	JP-NPH105 (A種)	φ1000-800	5 + 7 = 12 m			
wP2	wF2	上杭 SKK490 (105N) t=12.0	HSC105	φ700	12 m	14-D38 (WSD390)	2400	2x2
		下杭	JP-NPH105 (B種)	φ900-700	5 + 7 = 12 m			
wP3	wF3	上杭 SKK490 (105N) t=12.0	HSC105	φ700	12 m	14-D38 (WSD390)	2400	2x2
		下杭	JP-NPH105 (B種)	φ900-700	5 + 7 = 12 m			
wP4	wF4	上杭 SKK490 (105N) t=12.0	HSC105	φ700	12 m	14-D38 (WSD390)	2400	1
		下杭	JP-NPH105 (B種)	φ900-700	5 + 7 = 12 m			





階	符号	wC1		wC2		wC3		wC4	
		幅×成	主筋	幅×成	主筋	幅×成	主筋	幅×成	主筋
6階	断面 	1000 x 650	3-D19 x 2	950 x 650	3-D19 x 2	1000 x 650	3-D19 x 2	950 x 650	3-D19 x 2
		X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)
		X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2				
5階	断面 	1000 x 650	3-D19 x 2	950 x 650	3-D19 x 2	1000 x 650	3-D19 x 2	950 x 650	3-D19 x 2
		X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)
		X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2				
4階	断面 	1000 x 700	3-D19 x 2	950 x 700	3-D19 x 2	1000 x 700	3-D19 x 2	950 x 700	3-D19 x 2
		X方向 5-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	10 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)	X方向 5-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	10 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)
		X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2				
3階	断面 	1000 x 700	3-D19 x 2	950 x 700	3-D19 x 2	1000 x 700	3-D19 x 2	950 x 700	3-D19 x 2
		X方向 5-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	10 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)	X方向 5-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	10 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)
		X Y D13 #100 3 2	X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 2 2				
2階	断面 	1000 x 700	3-D19 x 2	950 x 700	3-D19 x 2	1000 x 700	3-D19 x 2	950 x 700	3-D19 x 2
		X方向 5-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	10 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)	X方向 5-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	10 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)
		X Y D13 #100 3 2	X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 3 2	X Y D13 #100 2 2				
1階	断面 	1000 x 700	3-D19 x 2	950 x 700	3-D19 x 2	1000 x 700	3-D19 x 2	950 x 700	3-D19 x 2
		X方向 5-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	10 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)	X方向 5-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	10 (6)	X方向 4-D25 Y方向 2-D25 + 3-D19	8 (6)
		X Y D13 #100 3 2	X Y D13 #100 2 2	X Y D13 #100 3 2	X Y D13 #100 2 2				

階	符号	wG1		wG2		wG3		wG4		wG5	wG6
		端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全域	全域
R階	断面 	400 x 900	3-D25	400 x 900	3-D25	400 x 900	3-D25	400 x 900	3-D25	400 x 500	400 x 500
		3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
		2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200
		4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10
		2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200
6階	断面 	450 x 750	5-D25 (Ld20)	450 x 750	4-D25	450 x 750	4-D25	450 x 750	4-D25	400 x 700	190 x 700
		4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	2-D19
		2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200
		2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10
		2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200	2-D13 #200
5階	断面 	450 x 750	4-D29	450 x 750	4-D29	450 x 750	4-D29	450 x 750	4-D29	400 x 700	190 x 700
		4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	3-D25	2-D19
		2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #200	2-D13 #200
		2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10
		2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #150	2-D13 #200	2-D13 #200
4階	断面 	450 x 750	4/1-D29 (Ld22)	450 x 750	4-D29	450 x 750	4-D29	450 x 750	4-D29	400 x 700	190 x 700
		4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	3-D25	2-D19
		2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #200	2-D13 #200
		2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10
		2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #100	2-D13 #200	2-D13 #200
3階	断面 	500 x 750	5/1-D29 (Ld22)	500 x 750	5-D29	500 x 750	5-D29	500 x 750	5-D29	400 x 700	190 x 700
		5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	3-D25	2-D19
		3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	2-D13 #200	2-D13 #200
		2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10
		3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	2-D13 #200	2-D13 #200
2階	断面 	500 x 750	5/1-D29 (Ld22)	500 x 750	5-D29	500 x 750	5-D29	500 x 750	5-D29	400 x 700	190 x 700
		5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	5-D29	3-D25	2-D19
		3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	2-D13 #200	2-D13 #200
		2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	4-D10
		3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	3-D13 #100	2-D13 #200	2-D13 #200



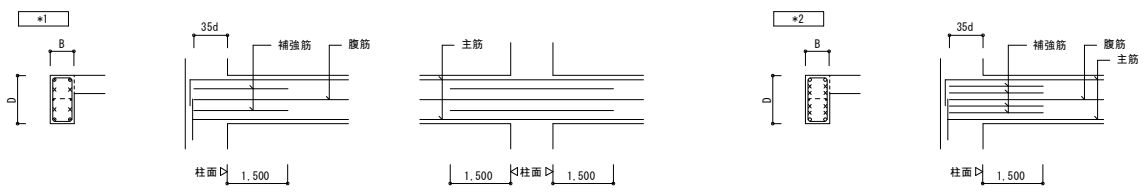
符号	カットオフ長さ (Ld)
Ld18	1800
Ld20	2000
Ld22	2200

※鉄筋のカットオフ長が Ld/2を超えて両端が重なる場合は、通して配筋する。  
※鉄筋のカットオフ長が Ld\* の場合で、その本数が中央部と同一の場合は鉄筋は連続して配筋する。

※ 梁主筋の曲げ定着位置は 0.800以上とする



梁主筋の柱への定着位置



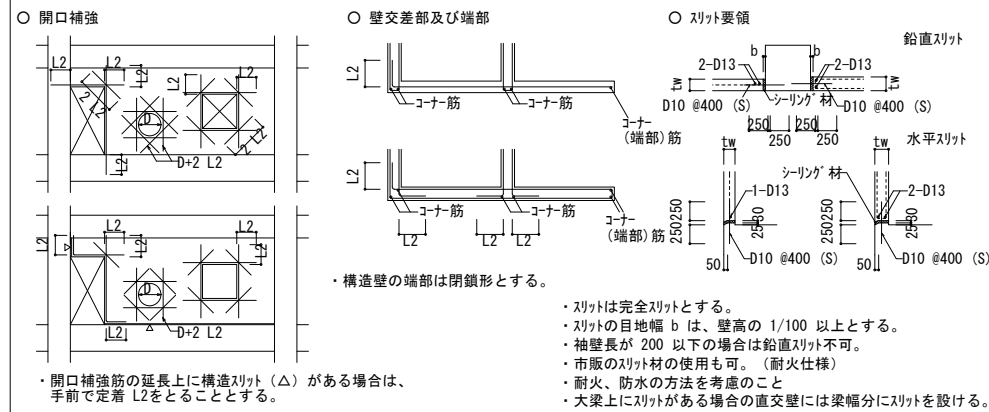
B x D	大梁リスト参照	備考
補強筋	*1	4-D13 2段
	*2	8-D13 4段

(注) 1. 補強位置は中空スラブ状図を参照。  
2. ねじれ補強筋の定着は柱内に35dもしくは通し筋とする。

中空スラブ 周辺受梁ねじれ 補強要領

壁 リスト S = 1/50

\* 巾止筋は D10@1000 以内とする。 [凡例] S = シングル、W = ダブル、T = チドリ



符号	W10	W12	W15	W18	W20	KW20
断面						
開口補強						開口補強筋は壁端部筋を表す
縦筋	D10 @200 (S)	D10 @200 (S)	D13 @150 (T)	2-D10 @200 (W)	2-D10 @150 (W)	2-D13 @150 (W)
横筋	D10 @200 (S)	D10 @200 (S)	D10 @200 (T)	2-D10 @200 (W)	2-D10 @150 (W)	2-D13 @200 (W)
開口補強	縦筋 1-D13 L2=520 横筋 1-D13 L2=520 斜筋 1-D13 L2=520	縦筋 1-D13 L2=520 横筋 1-D13 L2=520 斜筋 1-D13 L2=520	縦筋 1-D13 L2=520 横筋 1-D13 L2=520 斜筋 1-D13 L2=520	縦筋 2-D13 L2=520 横筋 2-D13 L2=520 斜筋 2-D13 L2=520	縦筋 2-D13 L2=520 横筋 2-D13 L2=520 斜筋 2-D13 L2=520	縦筋 2-D19 L2=760 横筋 2-D19 L2=760 斜筋 2-D19 L2=760
コーナー筋	1-D13	1-D13	1-D13	2-D16	2-D19	2-D19

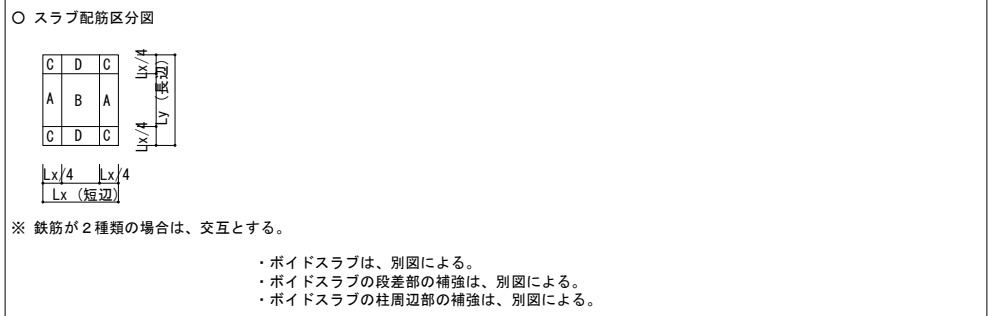
符号	EW19	EW20
断面		
開口補強		
縦筋	2-D10 @150 (W)	2-D10 @150 (W)
横筋	2-D10 @200 (W)	2-D10 @150 (W)
開口補強	縦筋 2-D16 L2=640 横筋 2-D16 L2=640 斜筋 2-D13 L2=520	縦筋 2-D16 L2=640 横筋 2-D16 L2=640 斜筋 2-D13 L2=520
コーナー筋	2-D16	2-D16

RC小梁 リスト S = 1/50

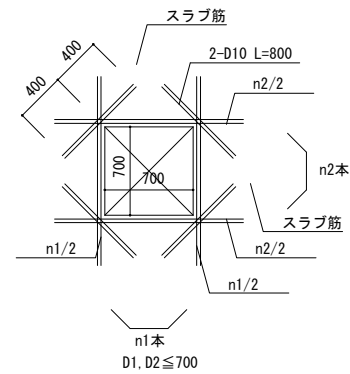
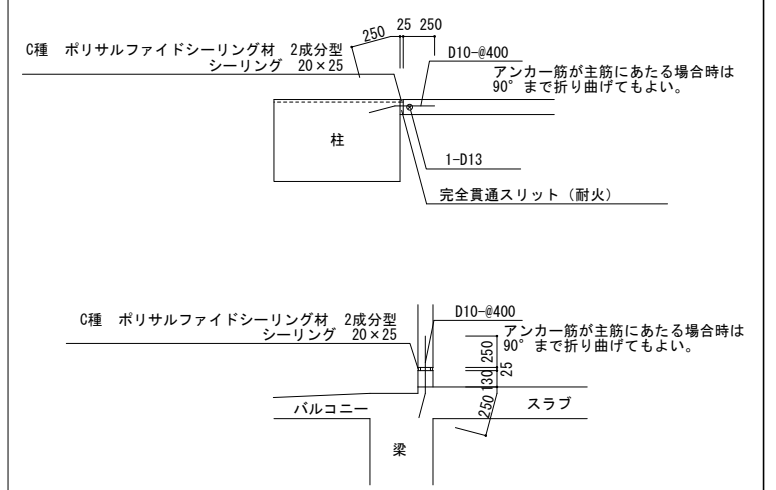
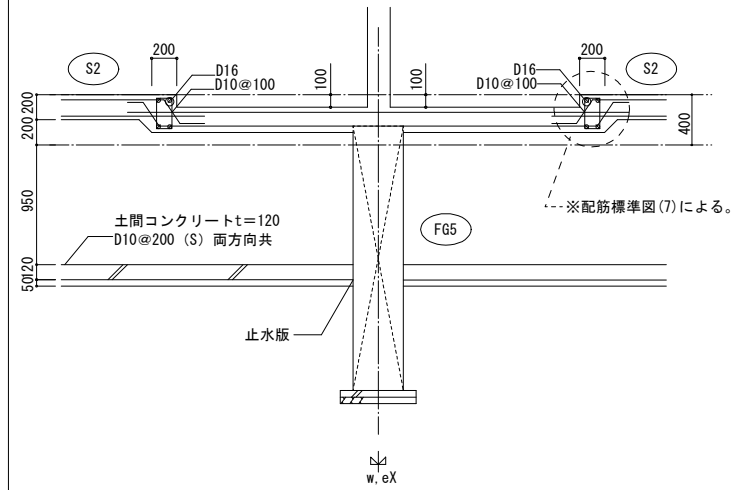
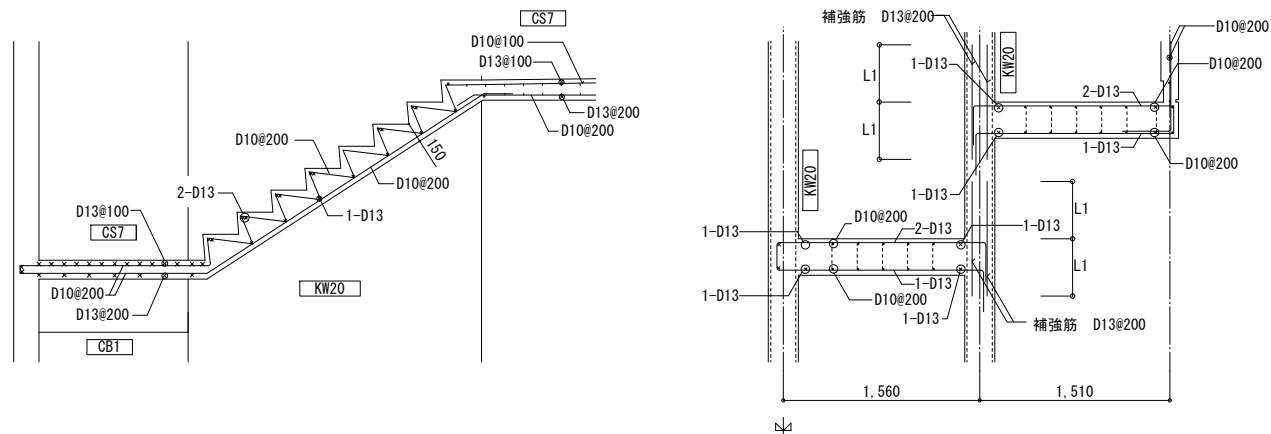
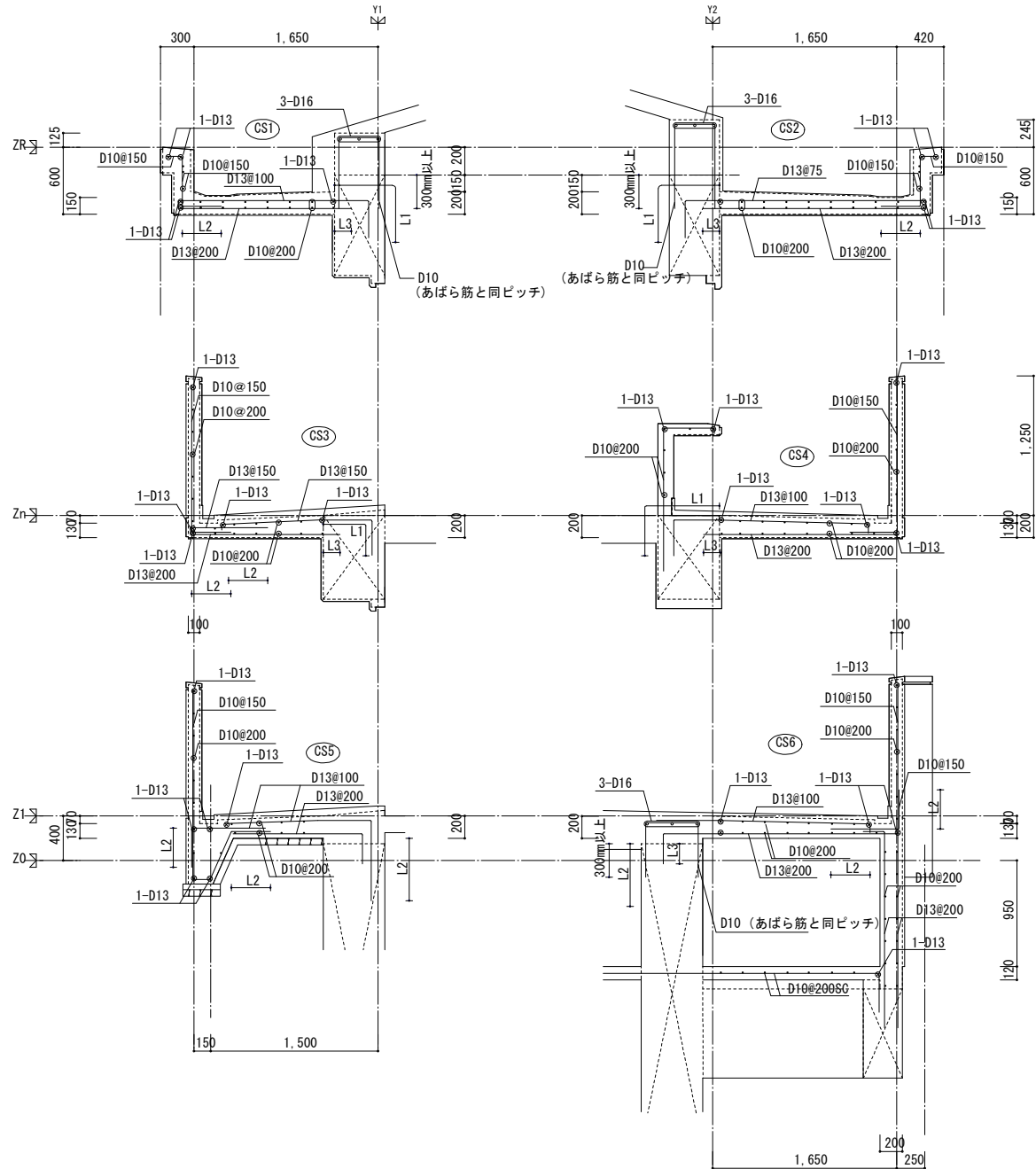
符号	B1		B2	B3	CB1	
	端部	中央	全域	全域	内端・中央	先端
断面						
巾×成	350 x 650		200 x 500	200 x 500	200 x 500	200 x 350
上端筋	4-D22	3-D22	2-D19	2-D19	2/2-D19	2-D19
下端筋	4-D22	4-D22	2-D19	2-D19	2-D19	2-D19
S T P	2-D10 @200		2-D10 @100	2-D10 @100	2-D10 @100	
腹筋	2-D10					

RC床版 リスト

※ 鉄筋が2種類の場合は、交互とする。



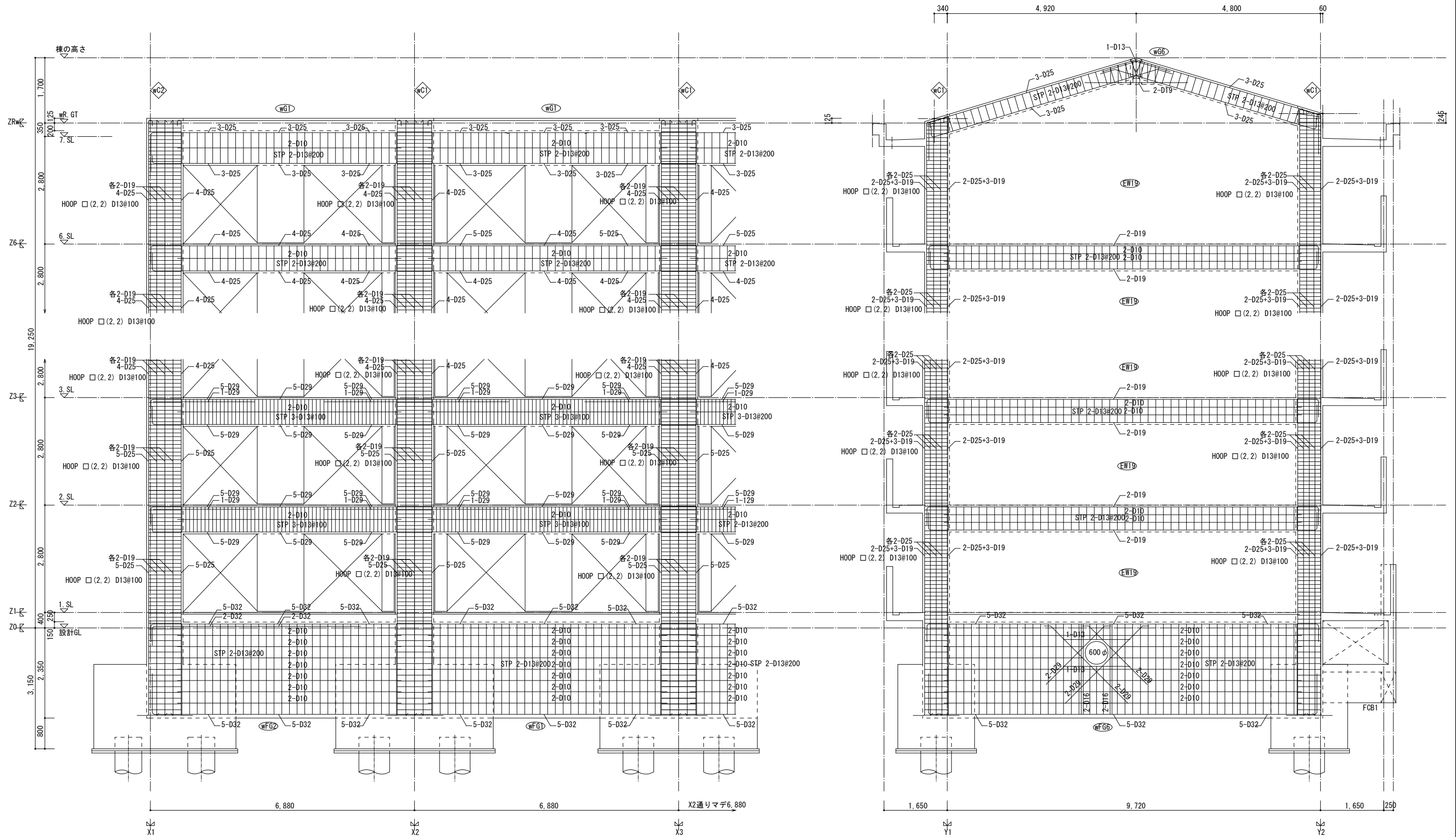
符号	版厚	拘束条件	位置	短辺方向		長辺方向		備考
				端部 (A, C)	中央 (B, D)	端部 (D, C)	中央 (B, A)	
S1	150	4辺固定	上端	D13 @200	←	D10, D13 @200	←	
			下端	D10, D13 @200	←	D10, D13 @200	←	
S2	180	4辺固定	上端	D13 @200	←	D13 @200	←	
			下端	D10, D13 @200	←	D10, D13 @200	←	
S3	150	4辺固定	上端	D10, D13 @200	←	D10 @200	←	
			下端	D10 @200	←	D10 @200	←	
S4	150	4辺固定	上端	D13 @200	←	D13 @200	←	
			下端	D10 @200	←	D10 @200	←	
CS1	200~150	片持ち	上端	D13 @100	←	D10 @200	←	
			下端	D13 @200	←	D10 @200	←	
CS2	200~150	片持ち	上端	D13 @75	←	D10 @200	←	
			下端	D13 @200	←	D10 @200	←	
CS3	200~165 (130)	片持ち	上端	D13 @150	←	D10 @200	←	
			下端	D13 @200	←	D10 @200	←	
CS4	200~165 (130)	片持ち	上端	D13 @100	←	D10 @200	←	
			下端	D13 @200	←	D10 @200	←	
CS5	200~165 (130)	片持ち	上端	D13 @100	←	D10 @200	←	
			下端	D13 @200	←	D10 @200	←	
CS6	200~165 (130)	片持ち	上端	D13 @100	←	D10 @200	←	
			下端	D13 @100	←	D10 @200	←	
CS7	200~150	片持ち	上端	D13 @100	←	D10 @200	←	
			下端	D13 @200	←	D10 @200	←	
CS8	150	片持ち	上端	D13 @100	←	D10 @200	←	
			下端	D13 @200	←	D10 @200	←	
FS1	300	4辺固定	上端	D13 @200	←	D13 @200	←	
			下端	D13 @200	←	D13 @200	←	



スリーブ記号	径	梁符号	梁幅B	梁成D	配筋種別
b	100φ	wG1, G2	400 450	900 750	H1 (RF) H1 (6F)
b	100φ	wG1, G2	450 500	750	H2 (4~5F) H3 (2~3F)
d	150φ	wG1, G2	400 450	900 750	H1 (RF) H1 (6F)
d	150φ	wG1, G2	450 500	750	H2 (4~5F) H3 (2~3F)
基礎梁 a, b	75・100φ	wFG3, FG4 wFG5, FG6	550	2,500	H11 H10
基礎梁 c, d	125・150φ	wFG3, FG4 wFG5, FG6	550	2,500	H11 H10
基礎梁 e, f	175・200φ	wFG5, FG6	550	2,500	H10
基礎梁 a, b	75・100φ	FG4a	650	2,500	H12
人通孔 h	600φ	wFG3, FG4 FG4a	550 650	2,500	H16 H17
人通孔 h	600φ	wFG5	550	2,500	H15

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
符号	A	B	C	D	縦筋B・上下鉄筋Dは、あばら筋とする
H1	4x2-D16	2x2-D13	2x2-D13	1x2-D13	
H2	4x2-D19	2x2-D13	2x2-D13	2x2-D13	
H3	4x2-D19	2x3-D13	2x2-D13	2x3-D13	
H10	4x2-D16	2x2-D13	2x2-D13	1x2-D13	
H11	4x2-D19	2x2-D13	2x2-D13	2x2-D13	
H12	4x2-D19	2x3-D13	2x2-D13	2x3-D13	
H15	4x2-D19	4x2-D13	2x2-D13	4x2-D13	
H16	4x2-D25	4x2-D13	2x2-D13	4x2-D13	
H17	8x2-D25	4x3-D13	2x2-D13	4x3-D13	

実際の施工にあたってはスリーブの位置、径、本数、補強方法について別途設備業者などと事前に入念な打ち合わせをすうえて、位置を検討し施工に際しては、監督員と協議を行い、承認を得ること。補強方法は計算書を監督員に提出し、承諾を得た上で既成品の使用は可能とする。

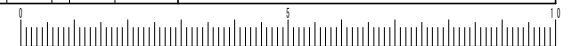


Y1 通り 配筋詳細図 S = 1/50

X2 通り 配筋詳細図 S = 1/50

一級建築士事務所 株式会社 黒野建築設計事務所 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627		上郷住宅建築工事 (第2工区)		図面番号 No. S-13
一級建築士登録 307737号 安東 広品		架構配筋図		縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100
棟 図	配 筋 図	設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

一級建築士事務所 匠建設、愛知県知事登録 (い-24) 第11595号  
 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人



# 中空スラブ標準仕様書

## 1. 適用範囲

- 本仕様は鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の建築物の中空スラブ工法に適用する。
- 本設計図面は鋼製フィンディングパイプ使用（以下パイプ）を前提として設計されたものであり、他のパイプに適用することはできない。
- 各項に対して別図などで詳細指示がある場合は、それに従うこと。

## 2. 使用部材

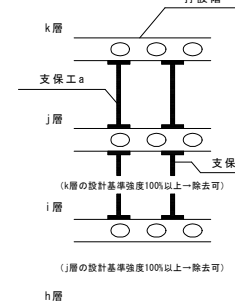
部材名称	材質	規格および材質
パイプ	亜鉛めっき鋼板	JIS-G3302 SGCC(相当品)
		JIS-G3313 SECC(相当品)

## 3. 中空スラブの施工

中空スラブの施工は下記に示す内容に準ずること。

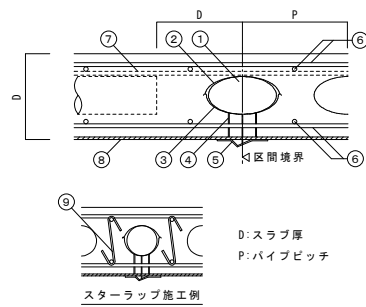
- 日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規程・同解説」
  - 日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」
  - (社)公共建築協会「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」
- 監理者の許可無くパイプ割付を変更しないこと。

## 4. 仮設支保工



- 支保工の盛り替えは、行わないこと。
- 支保工の存置期間は、設計基準強度の100%以上のコンクリートの圧縮強度が得られたことが確認されるまでとするか、構造計算により十分な安全が確認されるまでとする。  
(コンクリート打設後、4週以上が望ましい。)
- 多層の場合は、支保工二層分打設層のスラブを受ける様に、打設層スラブ(k層)が上記の(2)を確認出来たうえで、支保工bを除去できる。
- スラブ下の支保工を早期取り外しすると、有害なたわみの原因となるので留意のこと。
- 上記以外については、JASS5(日本建築学会)に従う。
- 上記記載なき支保工計画については、監理者の承諾を得ること。

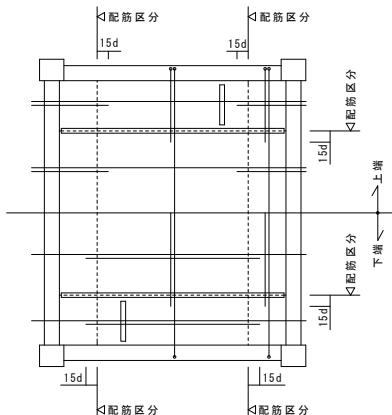
## 5. 中空スラブ標準構成図



符号	名称
1	パイプ
2	巻線
3	受金物
4	受合
5	ウェッジ
6	スラブ筋
7	スペーサー筋
8	型枠
9	スターラップ(巾止め筋)

\*左図は構成図例を示す。従って、詳細構成、パイプ寸法、鉄筋かぶり、スペーサー筋有無、スターラップの有無等は、別途スラブリスト、中空スラブ断面図等を参照のこと。

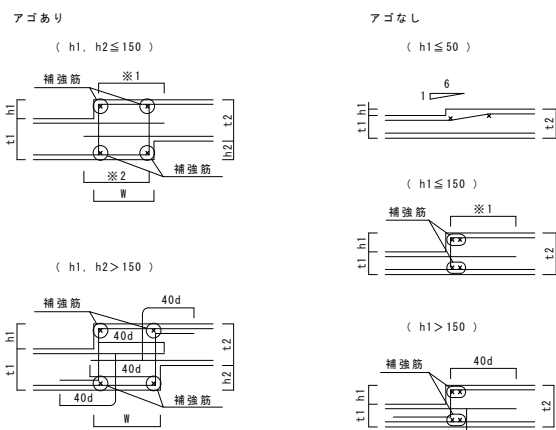
## 6. 配筋要領図・余長



## 7. 段差部配筋要領図

コンクリート強度により継手、定着長を変更する場合は、監理者の指示に従うこと。

### (a) 相互定着形式



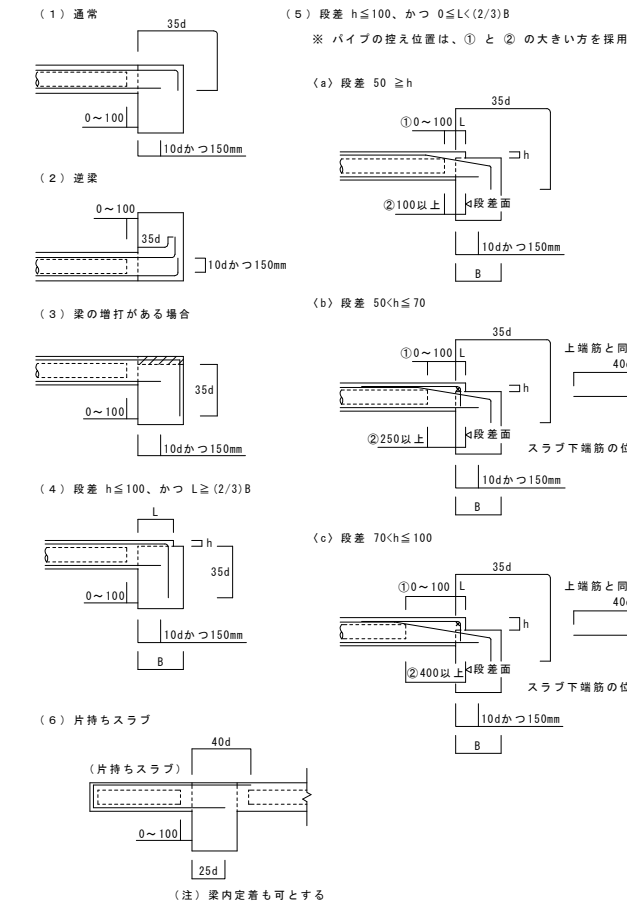
### (b) スターラップ形式



- dは鉄筋の呼び径とする。
- 補強筋までは各々のスラブ配筋を行う。
- 定着長さは鉄筋交点からの長さとする。
- \*1印の継手長さは40dかつ5h1以上とする。
- \*2印の継手長さは40dかつ5h2以上とする。
- \*W = t2 + h2を原則とする。
- 各部h寸法、W寸法は設計図による。

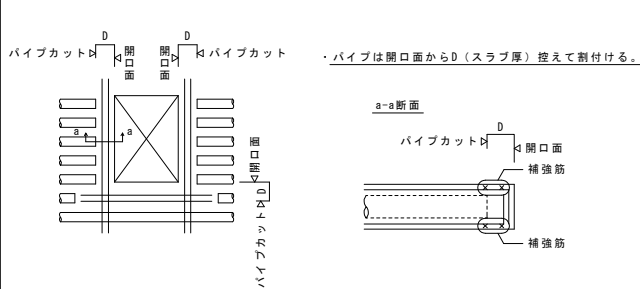
## 8. 大梁定着配筋要領

コンクリート強度により定着長を変更する場合は、監理者の指示に従うこと。  
※ h>100の場合は、監理者の指示に従うこと。

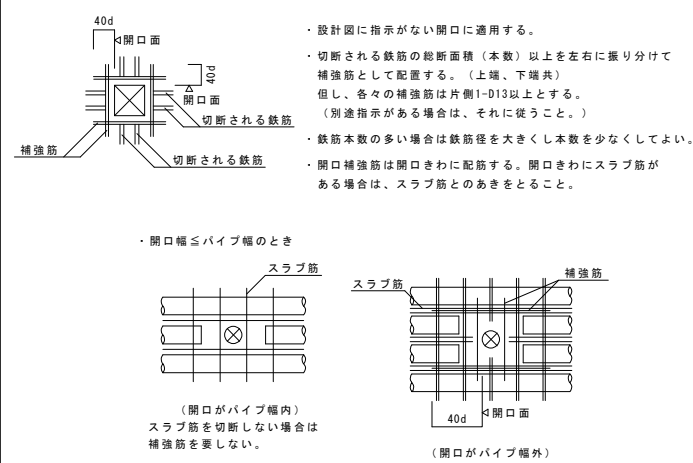


## 9. 開口割付・補強要領

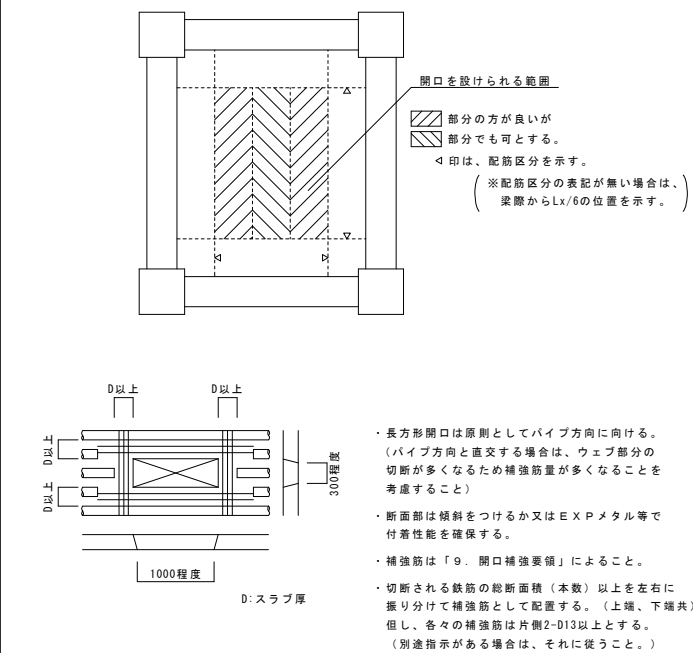
### 割付要領



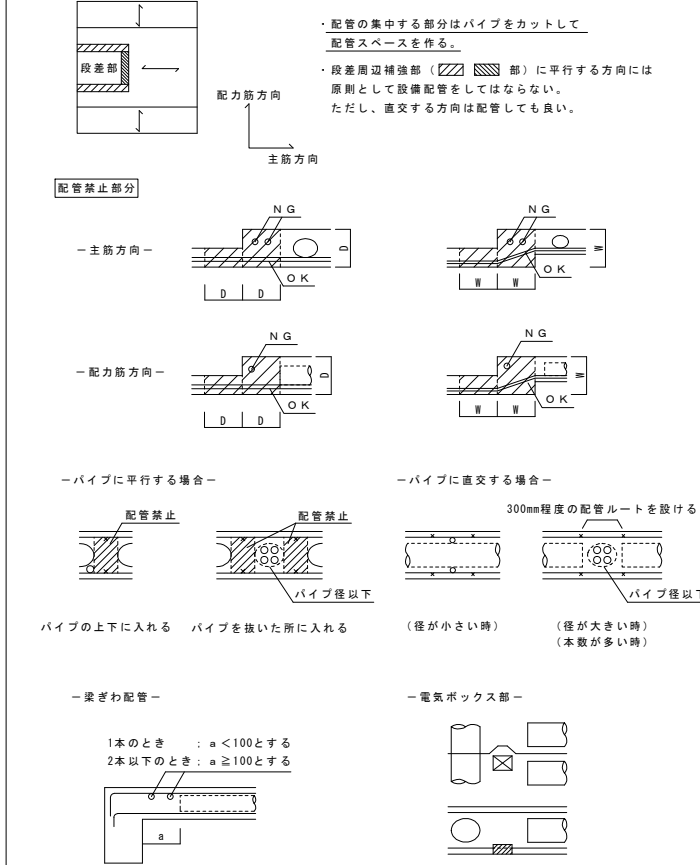
### 補強要領



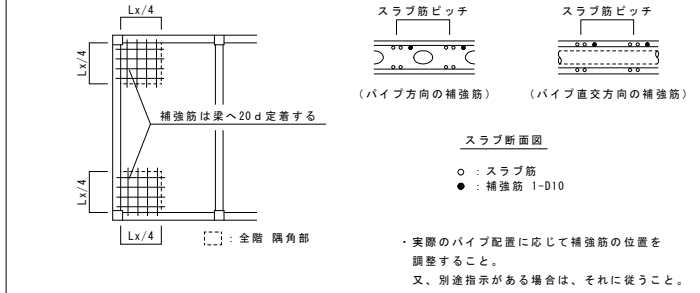
## 10. 仮設開口



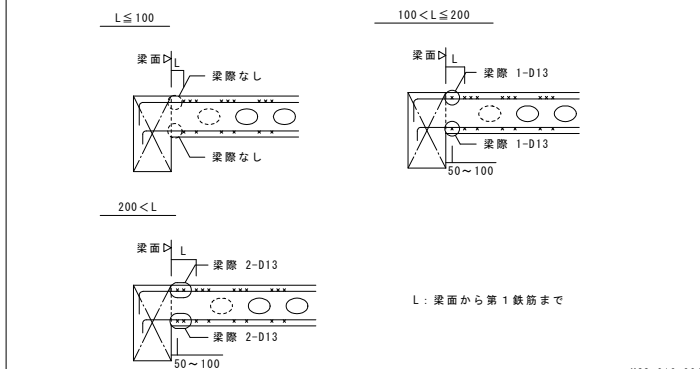
## 11. 中空スラブ内設備配管



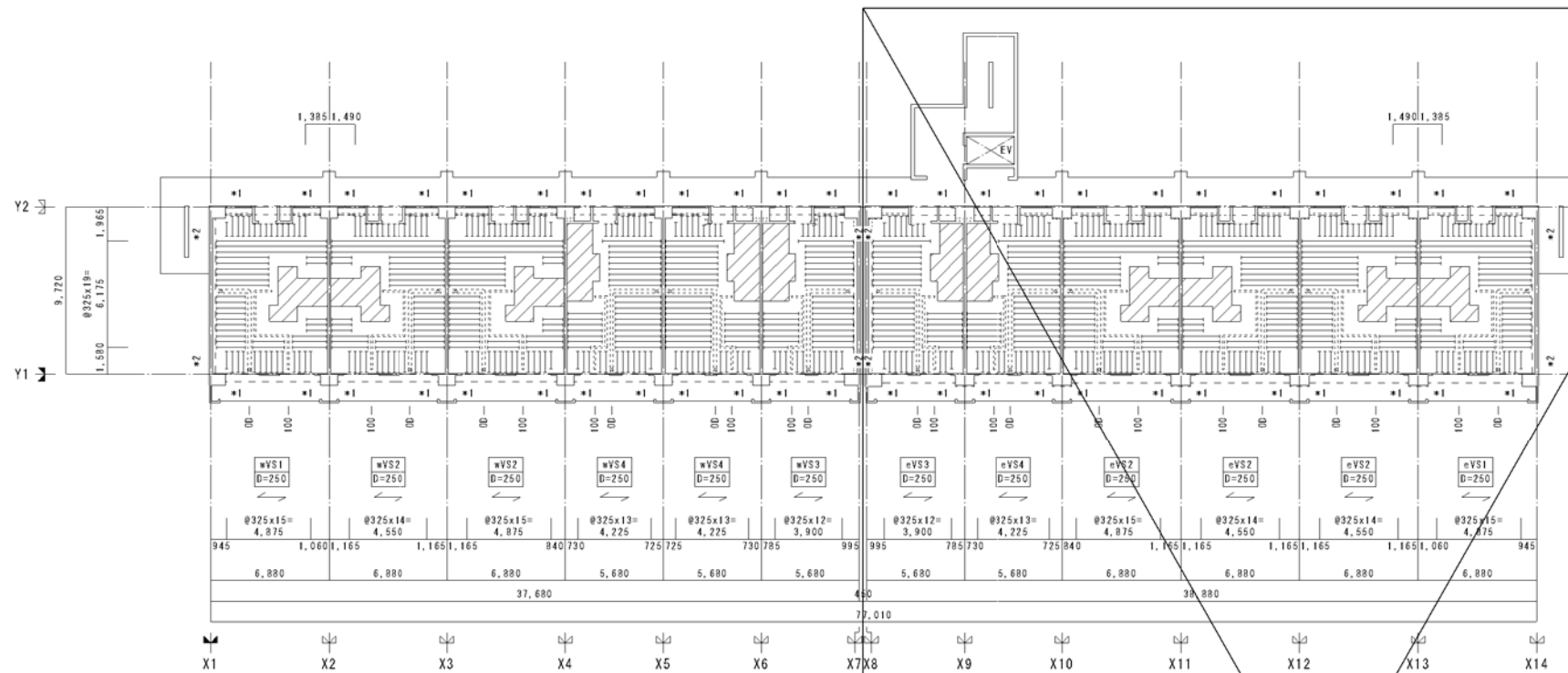
## 12. 隅角部の補強筋要領



## 13. 梁際の中空スラブ配筋要領

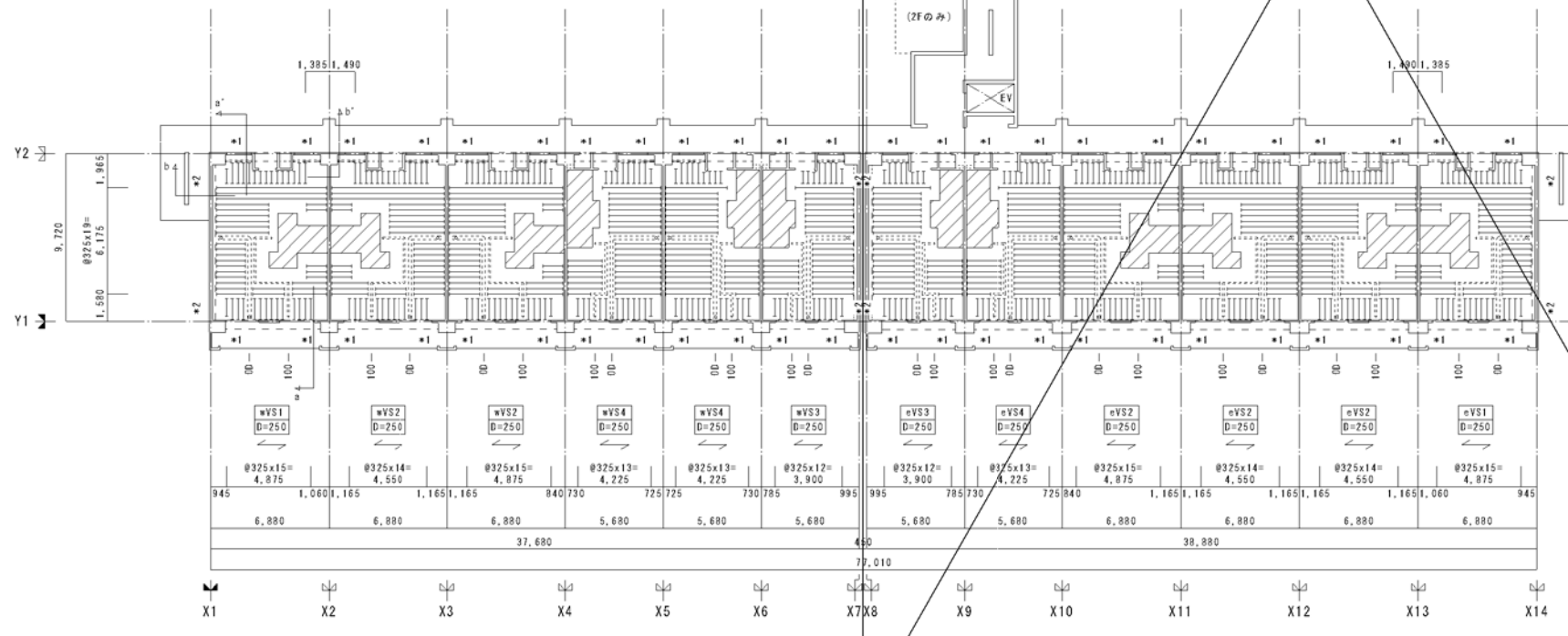


Ver: K50.010.001.H



南棟W 4階中空スラブ伏図 S=1/200 (見下付図)

南棟E 4階中空スラブ伏図 S=1/200 (見下付図)



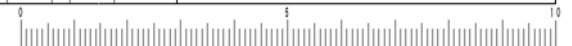
南棟W 2.3階中空スラブ伏図 S=1/200 (見下付図)

南棟E 2.3階中空スラブ伏図 S=1/200 (見下付図)

- 特記なき限り下記による
- 中空スラブ表記
    - ← は主筋方向を示す。
    - はパイプ径  $\phi 200 \times 100$  を示す。
  - 中空スラブ天端レベル
    - $Z_n \pm 0$  を示す。(D=250:  $\phi 200 \times 100$ )
    - $Z_n - 100$  を示す。(t=150)
  - 中空スラブ補強
    - \*1, \*2 は用器受架ねじれ補強位置を示す。
  - その他
    - 100: 硬質塩化ビニル管 (厚肉)  $\phi 100$
    - OD: オーバルダクト  $\phi 190 \times 100$
    - 中空スラブ断面配筋
    - a-a' 主筋方向断面 b-b' 配筋方向断面 位置を示す。

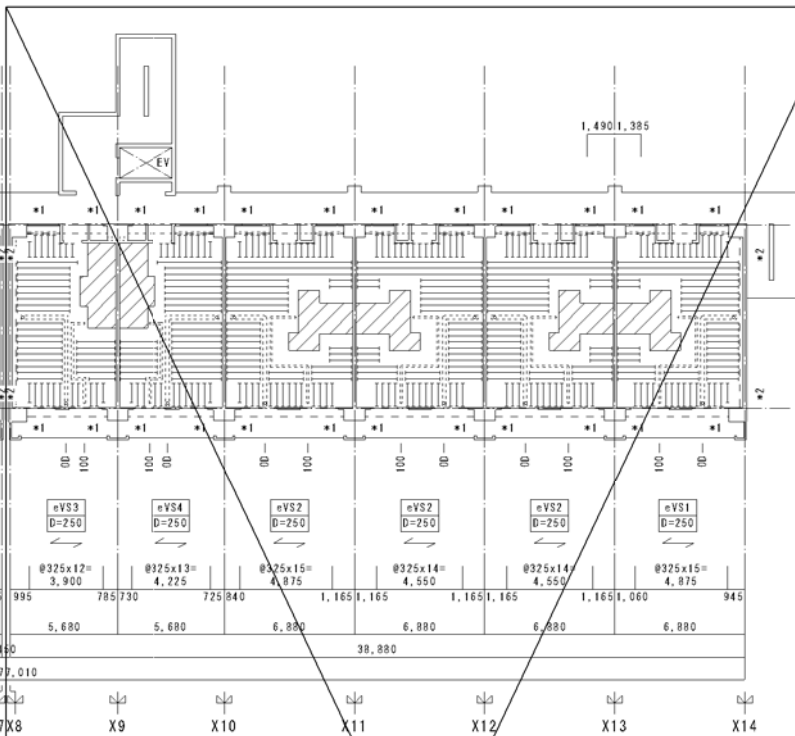
一級建築士事務所 株式会社 <b>黒野建築設計事務所</b> 一級建築士事務所登録 愛知県 L11627	上郷住宅建築工事 (第2工区)  南棟W・E 2~4階中空スラブ伏図	図面番号  No. S-15
一般建築士登録 307737号 安楽 広品	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	
棟別 製図 設計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

一級建築士事務所 匠建設、愛知県知事登録 (い-24) 第11595号  
 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人

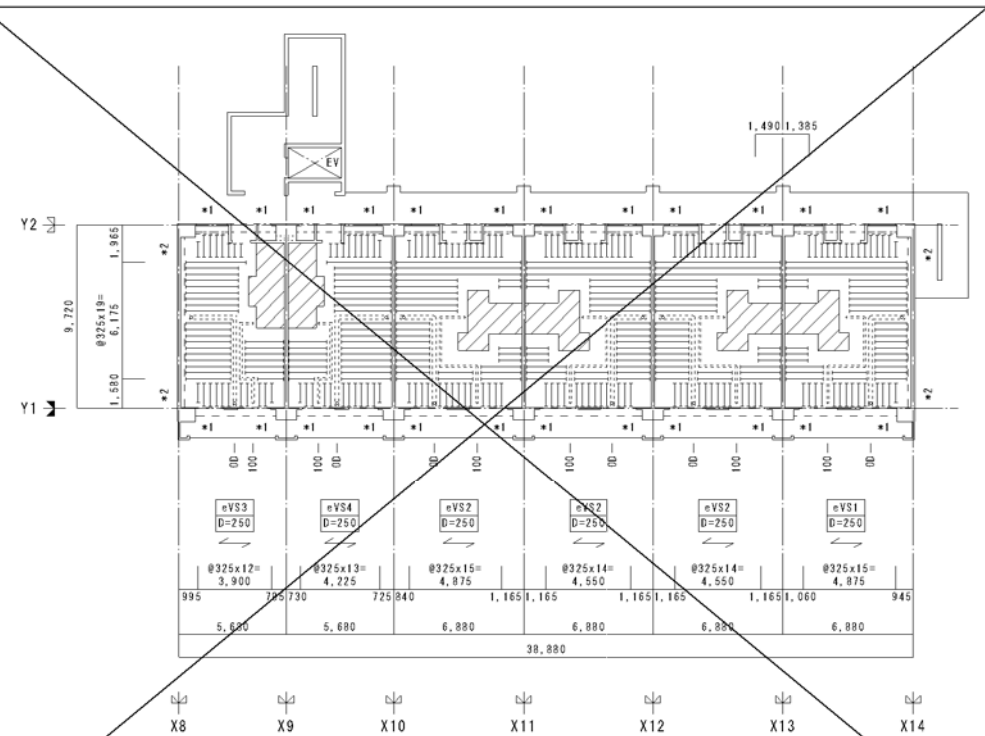




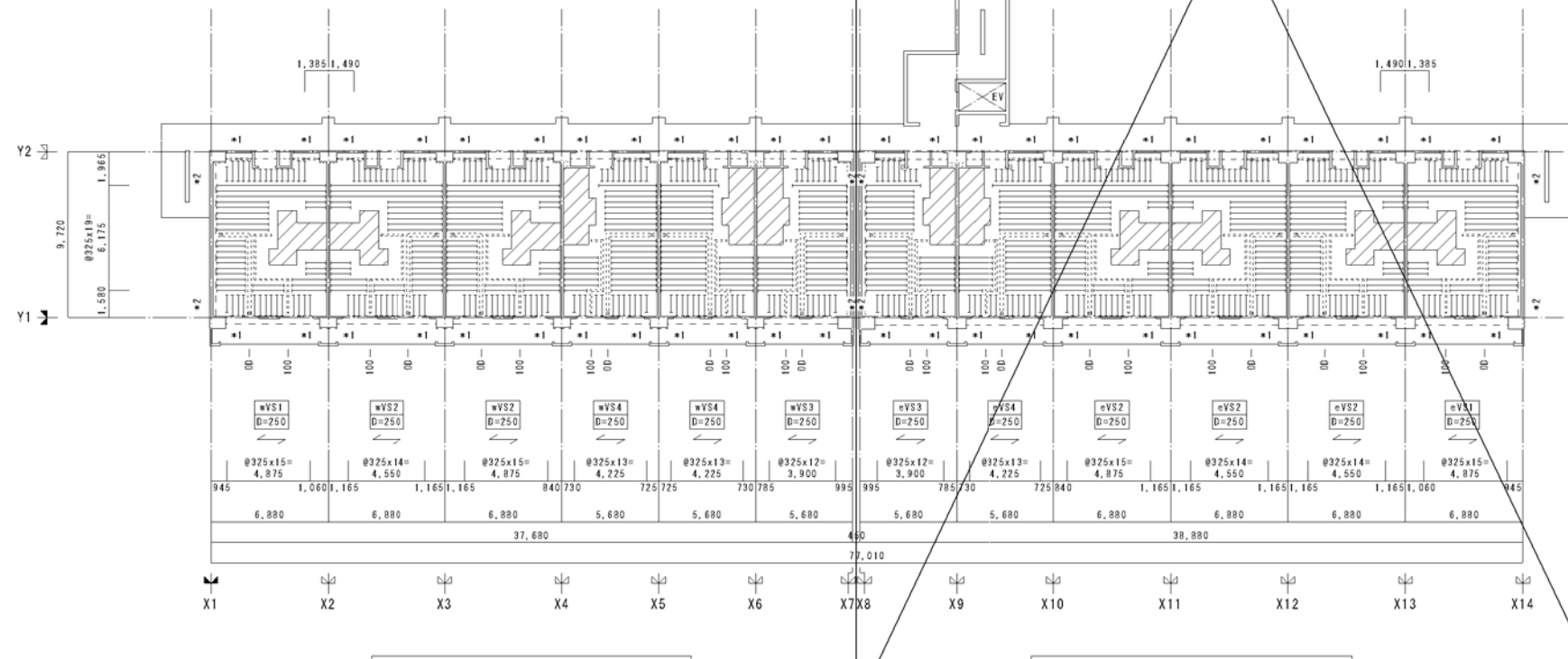
南棟W 6階中空スラブ伏図 S=1/200 (見下付図)



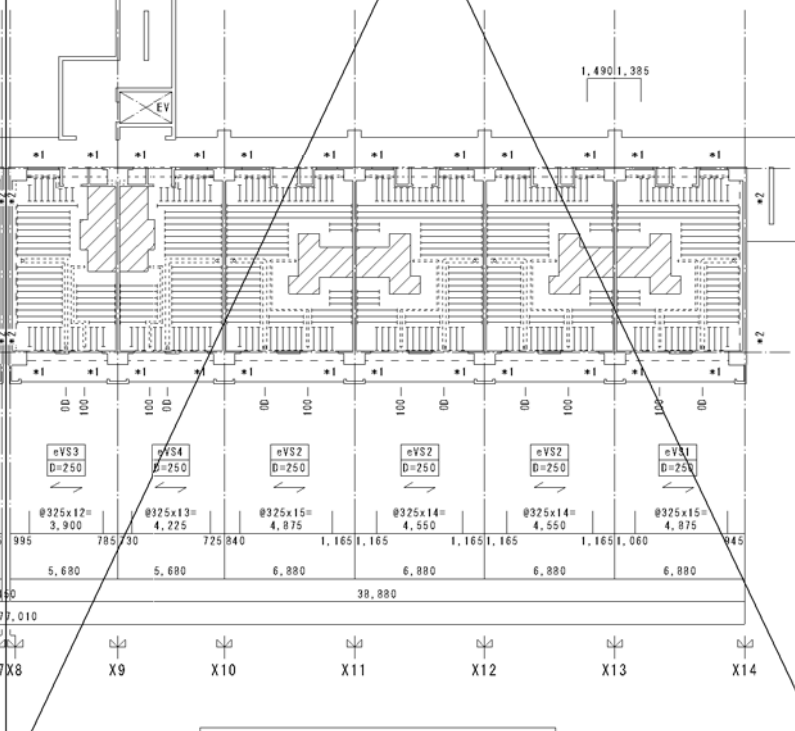
南棟E 6階中空スラブ伏図 S=1/200 (見下付図)



南棟E 7,8階中空スラブ伏図 S=1/200 (見下付図)



南棟W 5階中空スラブ伏図 S=1/200 (見下付図)



南棟E 5階中空スラブ伏図 S=1/200 (見下付図)

- 特記なき限り下記による
- 中空スラブ表記
    - ← は主筋方向を示す。
    - はパイプ径φ-200x100を示す。
  - 中空スラブ天端レベル
    - Zn ± 0 を示す。(D=250:φ-200x100)
    - ▨ Zn - 100 を示す。(t=150)
  - 中空スラブ補強
    - \*1,\*2 は用器受架ねじれ補強位置を示す。
  - その他
    - 100: 硬質塩化ビニル管(厚肉)φ-100
    - OD: オーバルダクト φ-190x100

一級建築士事務所 株式会社 <b>黒野建築設計事務所</b> 一級建築士事務所登録 愛知県 L-1627	上郷住宅建築工事(第2工区) 南棟W・E 5~8階中空スラブ伏図	図面番号 No. S-16
一級建築士登録 307737号 安楽 広品	縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400	
検 査 製 図 設 計 H28年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

一級建築士事務所 匠建設、愛知県知事登録(い-24) 第11595号  
 一級建築士 92468号、構造設計一級建築士 7713号、伊藤 一人



中空スラブ リスト S=1/30		(注) 1. スラブ筋の定着要領は、中空スラブ標準仕様書 8 を参照。																										
記号	wVS1, eVS1	wVS2, eVS2								wVS3, eVS3								wVS4, eVS4										
パイプ	φ-200x100 #325	φ-200x100 #325								φ-200x100 #325								φ-200x100 #325										
方向	主筋方向				配筋方向				主筋方向				配筋方向				主筋方向				配筋方向							
位置	外端		中央		内端		両端		中央		両端		中央		外端		中央		内端		両端		中央		両端		中央	
断面	(A)	(C)	B	D	A	C	D	(C)	C	B	(A)	A	A	B	A	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A
上端筋	2-D13	2-D13	1-D13	1-D13	3-D13	3-D13	2-D13	1-D13	3-D13	3-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	2-D13	2-D13	1-D13	1-D13	3-D13	3-D13	2-D13	1-D13	3-D13	3-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13
下端筋	2-D13	2-D13	1-D10+2-D13	1-D10+2-D13	1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D13	1-D13	2-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	2-D10+1-D13	2-D10+1-D13	1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13

